

## &lt; 資料紹介 &gt;

## 『靈交』 にあとがきを記す。(7)

— 香川県大島の療養所をあらわす点描 —

- 『『靈交』 にあとがきを記す。』(1) 『彦根論叢』 第 378 号 (2009 年 5 月) 掲載  
 同 (2) 同 第 379 号 (2009 年 7 月) 掲載  
 同 (3) 同 第 380 号 (2009 年 9 月) 掲載  
 同 (4) 『滋賀大学経済学部研究年報』 第 16 卷 (2009 年 11 月) 掲載  
 同 (5) 『彦根論叢』 第 384 号 (2010 年夏号, 6 月) 掲載  
 同 (6) 同 第 385 号 (2010 年秋号, 9 月) 掲載

阿 部 安 成

## 【資料】

## \* 「感謝欄」『靈交』 第 194 号, 1935 年 1 月 10 日

「一, 金六拾錢也, 姫路, エカク先生/一, 金壹円五拾錢也, 広島, 協同教会婦人会/一, 金壹円也, 奥村竹一様/一, 金壹円八拾錢也, 香川, 原田義太郎様/右, 有難く頂きました。」

## \* 「編輯後記」 同前

「○恩寵の年を送り恩寵の年を迎へる, 生命より永生への生涯, 主の宝血を仰いで大感謝である。神の中に凡てを任せて凡てを求めて行く大安心である, 今年も恵まるゝぞ大丈夫である, 芽出度いぞ, 芽出度いぞ。/○万年小年だから年を迎へれば迎へる程に若くなる。益々神の子供になる, お父さんは自分のものだよ, 誰が何と言つても天父は自分のお父さんだ, 嬉しいなア。/○寒い風が海面を亘つて来て肌を噛む。松の颯々たる音が骨に滲みる, 麻痺した手足は金か石の如く凍て来る。然し, 我霊は祈の火と主の血で熱かい。新しい年だ, 新しい使命に勇みて来る……ハレルヤ/○百三十坪の開拓地に四十坪の鉄骨コンクリートの礼拝堂が建てられるとて, 材料がドンドンと運ばれる。楽しい事である。現は祈会と聖書研究会は不自由であるが, 此処しばらくの辛棒である。これだ, 即ち永久の幸福を望み約束されると, 現在の不自由は楽

しみの内に過ぎて仕舞ふものだと言ふ事だ。/○編輯子の肉体は半分破れて来たが, 内なる編輯子は益々健かである。臥床して居る場合にても何も頼まず何も望まず, 只祈り一つに神に任して居ると楽しいものである。現在もよし天国もよし, 働くもよし臥床もよし, 凡ての事が有難い。/○先ず新年号も生れました。皆さん御芽出たふ御座ります。新しき年も新しき力を頂きましてウンとやりませう。田面は色付き鋭鎌を待て居ります。宗教時代と成りませう。刈入れ時です。あづかつた銀一枚をば働かす時でありますよ。/○愛する祖国を一層に輝して世界に十字架の真の救ひを伝へる迄に向上しますやうに, 共に祈り共に尽しませう。これほどの忠君と愛国とがありませうか。神に従ひその訓を守るは諸徳の帯であります。/各位の御幸福を祈りつゝ、擱筆いたします。以上」

## \* 「感謝欄」『靈交』 第 195 号, 1935 年 2 月 10 日

「一, 金参円也, 東京, 林芳信様/一, 金貳円也, 台湾, 上川豊様/一, 金貳円也, 豊橋, 岡田大吉様/一, 金六拾錢也, 八幡, 塩見武雄様/一, 金五拾錢也, 高松, 山本シメ様/一, 金参円也, 大阪, 西田五郎様/一, 金貳円也, 京都, 西垣淑枝様/一, 金六拾錢也, 京都, 伊賀貞子様/一, 金五円也, 高松, 三番丁教会様/

一、金壺円也、高松、鎌田ヒロ様／一、金五拾錢也、高松、中野太助様／一、金七円也、高松、東教会様／一、金壺円也、高松、大塚千勇様／一、金貳拾円也、高松、エリクソン様／一、金拾円也、岡山、田中文男様／一、金貳円也、香川、鹿角義助様／一、金六拾錢也、神戸、塚田喜太郎様／一、金參円也、北見、中村恵様／一、金壺円也、福岡、近藤悦子様／一、金貳円也、門司、宮内彰様／一、金壺円也、京都、吉田義子様／一、金貳円也、高知、丑井友次郎様／一、金六拾錢也、鞍山、清水とら子様／一、金貳円也、松山、青野兵太郎様／一、金壺円也、香川、坂本皆之助様／一、金壺円也、岡山、井上孝子様／一、金參円也、上州、内田久治様／一、金參円也、愛媛、橋新様／一、金貳円也、千葉、高橋音市様／一、金壺円也、京都、松尾相様／一、金參円也、京都、志村卯三郎様／一、金壺円五拾錢也、香川、山本徳義様／一、金五円也、神戸、聖書教会様／一、金貳円也、大阪、長井群司様／一、金壺円也、高知、谷愛美様／一、金貳円七拾五錢也、広島、協同基督婦人会様／一、金壺円也、京都、高瀬時助様／右、厚く御礼申上ます」

**会計係「感謝欄」『靈交』第196号、1935年3月10日**

「一、金貳円也、京都、メソヂスト／伏見教会様／一、金六拾錢也、高知、大坪虎意様／一、金貳拾円也、東京、富山タワ様／一、金壺円也、神戸、勝原梧風様／一、金五拾錢也、神戸、塚田喜太郎様／一、金壺円五拾錢也、広島、小川健太郎様／一、金貳円也、大阪、広瀬広治様／一、金壺円也、香川、高島亀太郎様／一、金壺円也、高松、森川なか様／一、金壺円也、高松、形見つるゑ様／一、金六拾錢也、愛媛、橋新様／一、金七拾五錢也、広島、協同婦人会様／一、金五円六拾錢也、近江、堅田SS校様／一、金六拾錢也、栃木、松村ゆき江様／一、金六拾錢也、東京、釣巻稔様／一、金壺円五拾錢也、滋賀、西井知与様／右、御礼申上ます、会計係」

**\* 「編輯後記」同前**

「○暖い冬である。イチゴが熟し、野菜がのぼると言ふ。それでも時々には凄い寒さを覗かして、『馬鹿にするない』と言ふやうに凍てつかず事がある。然し、本誌が皆様の御手許に届く時分には、優しい春が微笑みかけて天地が色つぱく踊り初めてゐるであらふ。／○槌の音が丘の上より聞えて来る、スバラシイ祈の家が出来るぞ、何だか自分がソロモンに成つたやうな気がして嬉しくてならぬ。実際は石一つも献げ得ないのだが。しかし、自分が最後迄忠実に祈り抜くならば、確にソロモンより成功者と言ひ得らるゝと思ふ。／○同胞に悩める人、苦しむ人、病める人が多い、本誌よ、その人に接して行くやうに。又、同じ主に在る人の靈に励ましとなつて呉れるやうに。若人の心の友となり老人の慰めとなつて呉れるやうに。生活に疲れし人の靈に、祈の火として燃え付いて呉るやうに祈る。／○靈交会よ健全なれ、最少し物質的にも奉仕力を恵まれたい、祈りが不足して居る、祈が欠げたら神の前に汝の信仰は何が残るか、神と人に向つて鐘を搗かふよ、祈りの醒めた響きを。追まれ追まれ、神に人に。／○大島に教派はない、キリストを会長に、聖書は会則である、会務も祈てゐると自発的に動いて行く、聖言を読み味ひ、祈りに沈み、救ひを瞑想して熱心なれば、ムツカシイ問題は起らないで恵まるゝ／○祈りと生活とが神の前に一致して潔められなければ、宗教が山奥に這入か葬式家に化するか、古代の精神の灸跡のやうになつてしまふであらふ。汗と涙との中で輝かねばならない。憂世の人の逃避邑とならねばならない、更生の産床と社会の母と……／○理屈は言ふが實際は神の前には全くの子供なのだ、信仰に理論は不用である、こんな文章みな吹き飛んで仕舞へだ、しかし社会を視ると言ひ度くなる、自分が高慢なのか外から言はしめるのか、ハツキリせない。／○あゝ火鉢の火がいこつた、番茶がにへた、イモでも焼いて一休みしやう。感謝々々、三月号が生れた。編輯にかゝる時の重荷と編輯を終た時の安心と

は、経験ない人には解されまい。イモも焼けた、火傷の御用心。／○サツマイモ、此奴は古い歴史がある、餓民を救ふ徳が史上に輝てゐる、甘くて香りがあつて口当りがよく、其上に身体の伸縮力を強め水気のめぐりをよくし、糞便の通じをよくすとある。滋養百パーセント。イモの劫徳を神に感謝します。それから番茶の哲学だが、紙巾がないから残念ながらガブリと飲むで擱筆することにします。／希ば各位の上に神の恩寵ますます豊かに、いよいよよき働きの器たらむ事を祈ります！』

＊「感謝欄」『靈交』第 197 号，1935 年 4 月 10 日

「一、金貳円拾銭也、京都、伊賀貞子様／一、金五円也、京都、丹羽喜隆様／一、金五拾銭也、神戸、塚田喜太郎様／一、金壹円也、島根、協同婦人会様／一、金壹円五拾銭也、島根、栃木英夫様／一、金壹円也、高松、三田徹郎様／一、金壹円也、神戸、富田諒吉様／一、金五円也、高松、奥村清一様／一、金参円也、京都、福永喜久恵様／一、金六拾銭也、神戸、鎌田吉平様／右、御礼申上ます。」

＊「編輯後記」同前

「○締切りを月の初めにするので、発行日まで丁度三十日かゝる。急テンポの現代では古聞の如き感じがする、しかし、本誌の主意は文字の外にある、靈のキラメク処にあると思ふて自ら慰むるのである、真理は決して古びるものでない。御蔭で本誌も愛読者が次から次ぎと起つて増加するので、何より嬉しい事である。／○広告料もなければ広告もせないが、愛読者の御厚意で次から次へと広告して下さいとの事で、意外な方より申込み者が起つて励まして下さいます。こんなに皆様が入力して下さいるので。編輯子はペン持つ事に重い責任を感じると同時に、大いに張合も感じてゐます／○春が来た、春が来た、小鳥の如く唄ひ、花の如く飾り、若芽の如く伸び上る靈性となりたものだ。新しい『祈りの家』は、本誌が発行になる頃には竣工するかも知れない、毎日一回は見物に行きて喜び楽

しみて居る、昨日から(三月七日)石板で屋根をフイて居る、ブリキ屋がガンガン、大工がコンコン、西風ザアザア、我らはニコニコである。／○祈家に二間に四間の立派な図書室が一室ある、問題は使用法である、願くば立派な常識を備ふるスクールの如きものと祈る。大島の病青年一部に勉強熱が高くて、現に或る指導者によりて『哲学講座』が開かれ、西洋哲学史も既に近世哲学史に及べると聞く、また短歌俳句方面は長足の進歩にて、各地方の歌壇俳壇に出陣して相当の成績を示しつつある。／○願くば中等程度の教科書とか其他百般の書物雑誌で御不用なものがあれば、御寄贈頂き度いものである。病者の教育程度は幼稚園より大学卒業迄居ります。最も多きは小学校卒業程度のもの。女子は高等女学校卒業が最高で、未就学の老女も居ります。たいていの書物は読みこなし得ます。万一にもカナワンは、所長殿初め役員を御願ひ申して総動員で学ぶも面白いと存じます。／○近頃編輯子は自分の詩形を短縮する事と使用語の研究に汗して居る、極端にして充意と言ふ点である、此処四、五年すればスバラシイ理想的なものを発表するべく気張てゐる、この男は何処まで独り気張るのか、天国で神の玉座に頭をウチツケて、『はつ』とする迄は祈つて気張りかやすのであらふ。／○本誌が皆様の御手に届くと間もなく、名古屋の一粒社より詩集『雲なき空』が出版になりませう、大衆に誦じつゝ靈糧を得ていたゞき度いと祈つた作品であります。出版の上は多数御使用を……一寸と書店の提灯を持ちます、然し、著者として本当に斯くした祈りで一杯であります。／○四月号も生まれました、全頁を徹して『復活』の生命を実証して居ると確信する。形式を離れてのイキスターアこそ聖旨であらふ。編輯も恵まれて終つた。今夜は何もかも忘れて神のフトコロに安眠しやう。近頃は大変な疲労を覚ゆる、天国が近いらしいぞ、何でも今の間にウンと働かふ。／皆様の御幸福を祈りつゝ擱筆します。」

### 会計「感謝欄」『靈交』第 198 号, 1935 年 5 月 10 日

「一、金壺円也、高松、児玉しづ子様／一、金壺円五拾銭也、広島、協同婦人会様／一、金壺円也、大島、奥村竹一様／一、金五円也、岡山、田中文男様／一、金壺円也、神戸、末永三喜太様／一、金貳円也、神奈川、堤薫一様／右、御礼申上ます、会計」

#### \* 「編輯後記」同前

「○鳥にも春の訪れて……訪れて……と謠曲でも出相にウララかな曖昧を覚えます。百九拾九号には新築禮拜堂献堂式記念号に致し度いと存じて居ります。立派なものが出来ました。式は多分五月初旬に挙行されるであります。／○今度の一粒社より出版になる拙著は、祈りの内にハッキリと示されました聖句を表紙に入れて貰ふ約束に成つて居ります。ヒュリタンの方には喰ひ足りない感を持たるゝがとも思ひますが、一篇ごとに祈り込めてあります。祈と愛と汗との内に生みし賜物で、出版の上に天よりの祝福を祈つて居ります。御教示を乞ふ！／○『寂寥の深さ』は自分の且ての反省を一般化して、其上に常に避けて居りました聖書研究的に示さるゝまゝに、聖霊に従ひて記しました。鳥では希望者に一週一回研究して居ますが、本紙面では先生方に属する事であるし、間違では思想でなく信仰に関する故にと思ひつゝ来て仕舞ました。／○修養団の高橋講師の御懇望にて、『砕けて結べ』と言ふ告白と『伸び行く者』と言ふ血族解放に関するものとトラクトの原稿を認めました。もし御希望でしたら、出来上つたなら御取次いたしてもよいと考えて居ます。私共の会より何か小さいものを出せる様になつたら嬉しいと思ひます。」

### \* 「編輯後記」『靈交』第 199 号, 1935 年 6 月 10 日

「○何と言つても満悦である、立派な『祈の家』だ、大島には一寸と其辺に無いと言はれる建て物が二つ出来た。一つは真言宗の御影堂である。彼れが工師の芸術的自慢の作品である、それと

今度のキリスト教の祈り家とである。兎に角、大島は宗教心の強いのが非常に有難い点であると思ふ。／○四国防空演習があると言ふ、大島が其飛行機の通り筋だと言ふ、其処で平和の鐘を搗くと言ふ……何かの暗示のやうに思はれる、神によりてのみ平和は保たるゝであらふと信ずる。／○沢山の方から祝辞や祝文を寄せられました。本誌に載せ切れないので、全部を載せない事にした、ヨコヒキなしに、そして式場では読まなかつたが、私の祝文を載せました。甚だ勝手であるが、斯の祝文は私の祈家に対する信念が顕してある、これで察して頂き度い故であります。／○夏が来ると、野球のシーズンと成る、過日も高松より共相チームが慰問試合に来て下さつてオール患者軍と交戦せられた。明日は役員軍と患者軍とのトロフィール争ひの第一回戦がある筈だ。中々に面白い、又患者には好球家が甚だ多い。／○毎日通信文や原稿を書いて居る内に、外は早や夏だ、帽子が窓外を通るのを見ると皆夏帽子である……アララ……と怪と考える、然し、考えて居ると五月末だ、俺が何とかして居るのだと解て来る。無理もない、俺はコールテンの服を着て居る、俺一人冬の中に居るんだからである。／○活きられる者だと感心する……弱つたのも本当なら、病気で不自由が加はつたのも本当なら、疲れの強く直ぐに感じるのも本当だが、死ぬのは一向に見当がつかん。神の聖旨なら計り難い、私はこの計り難い力に活かされて居るのだと信じて居る。／○私が広告したが、詩集は未だ出来ないらしい、一時、斯の広告は取消します、本に成つてから改めて広告いたしませう。それより今度、血族解放に関して記しましたトラクトが出る事になりましたから、出版の上は、是非とも皆さんに無理にも読んで頂き、『癩と癩問題に対して正しき智識』を得て頂き度いと思ひます。／○次号は本誌二百号である。有難い此の間を神に守られました。貧弱なものも、立場に於て何かの役割に用ひ下さつた。これは大なる感謝である。たゞ神によりて、たゞ神へである、其他に何の野心

もない。／○活きると言ふ事は、働くと言ふ事である。しかし私共は、活きると言ふ事は、祈ると言ふ事である。／○祈りそのものが、本誌であり、祈りそのものが靈交会である、此の意味から、靈交会と本誌とは一つである筈である。しかるに個人誌と言ふ形に近づく、これは余り私が長く関りすぎるて居るからであらふ。一つ何とか本質に引戻すべきであらふ。／○哲学をやれと、神戸の石原先生が御勧め下さる、門を覗ひた位でよいとの事。いつでも急稿であるから少しユツクリやれば良からふと思ふ、が現在のやうでは中々、哲学もやれさうでない、暇が欲しいのだ。／○では皆さん、木蔭に時鳥が鳴くでせう、御健康と御幸福を祈ります。希ば……聖戦に勝利あれ……アーメン」

会計係「感謝欄」『靈交』第200号、1935年7月10日

「一、金弍円也、京都、四方文吉様／一、金弍円也、東京、宇津木勢八様／一、金壹円也、岡山、宮川量様／一、金六拾錢也、東京、水野国次様／一、金五円也、兵庫、名和金次郎様／一、金弍円五拾錢也、東京、協同教会SS様／一、金六拾錢也、東京、小塚ミネ様／一、金弍円五拾錢也、京都、伊賀貞子様／一、金壹円五拾錢也、広島、協同婦人会様／一、金壹円弍拾錢也、岡山、林麟三様／右、御礼申上ます。(会計係)」

\*「編輯後記」同前

「○今号は第二百号ですから何か特輯したいと考えましたが、原稿が他にも二、三送るが後に迫つて居ますので、誠に平凡に終りました、教へがましい記事に恥じて居りますが、青年の起たん事を祈るので、何かの参考にもと思ひ神的維新を記しました。老人には考えて頂き、若人には奮起して為て頂き度い……次の二百〇一号より『靈交会史』と言ふに近いもの、又、療養所の実相にも近い『恩寵の花片』と題して古い思ひ出て話を、回を追つて記す予定で居ります。／○身の上話なども皆様御歓迎下さる事は存じて居りますが、余り度々語ると、語る自分が鼻について来ますし、中には自分で言えない事

もあり致しますので、一つ編輯子が何か他処の話でもするやうに記して、相当に思ひ切つて赤裸に申ます、差岡が起るかも知れませんが、都合の悪い点では人物は遠慮しますから天下御免をかをむります。／○書けば皆さんに趣味と益がある問題でも、或筋から『まかりならぬ』と御叱もありましたり、それかと言ふと、『彼の件を脱して居る』と不平を頂いたりしはせぬかいなど中々気兼ねもありまして……それでかい……と其辺で笑つて居られるが、これで甚だ小胆者でありまして、はッはッはッはッ。／○兎に角、これで病氣は重り身は軽み、何時天まで舞ひ上るやら知れませんが、今の内に会史の材料をポツポツと出して置かぬと、後に新米ばかり残つては……ヤア失敬／……早や叱られた。／○有難いことには、又々 皇太后陛下より楓の実生を御下賜になりまして、我等は御仁慈の量り得られない深さに感泣いたして居ります。他所と異なりまして、秋告ぐる紅葉する樹の蔭の土地、うれしい事、楽しみなことで御座ります。／○先きに御下賜になりました鶏雛は早や、東天紅を告げて呉れて居りますので、私共は朝な朝な、その声に 陛下の御徳く有難く偲び上げて居る次第で御座ります。今更ならねども、日本の民として生まれさせて頂きました事を、天の父なる神に御礼申てゐます。／○修養団は日本人の愛国運動として誠に立派なもので、大鳥にも支部を持つて居りますが、蓮沼主幹なり各同志が非常に御理解下さいまして、『血族開放』に着手して下さいまして、既に未患児童を数名ひきとりて養育して下さいますので、大感謝を致し居ります。斯る事は未だ聞かざる処で御座ります。／○皆様より御手紙其他を頂きまして、大満悦で慰められ教えられて居ります、厚く御礼申上げます。それにつけても御礼状を差上る事が遅れたり失礼のみ致して居ります。そのかはり、御励を頂いた力で御用にいそしみて居ります。決してノラクラではありません。／○夏に成ると血兄弟の蚤公が出て来て、寝附が悪いことがあると翌日の疲労が一入である。砂

地に多いとの事で相当に予防衛生に注意されて居るが、中々多いことだ。／○何と情死とか自殺の多い事か、本誌に書いた如く、『霊の責任は自殺で解消はせぬ』から斯の科学的永生上より最一度よく考え直して、『来世観』を確立して、現世の行き方を改善努力する事だ……青年諸君！／○百合が香ります、アマリ、スが花を持ちました、燕が巢立して、軒に風鈴が鳴り出します、向暑の砌り、各位の御幸福を祈り上げます。／大神の生命に立ちて勇めかし／若き月日を力かぎりに」

**会計係「感謝欄」『霊文』第 201 号, 1935 年 8 月 10 日**

「一、金弍円也、広島、協同婦人会様／一、金壹円也、愛媛、藤原嘉泰様／一、金壹円也、大島、奥村竹一様／一、金六拾錢也、宇野、秋山忠治様／一、金參円也、神戸、高田テル子様／一、金五円也、近江、八幡SS校様／右、御礼申上ます。会計係」

**\* 「編輯後記」 同前**

「○梅雨で各地に水害、『御見舞申上候』、何かに附けて聖言の尊さが味は、されます、末の世には天に異変あり地に災害続出するとの予言が思ひ出されて戦慄いたします。それと同時にキリストの御再臨に輝ける希望を強く致します。此際みな様の霊肉の御健康を祈上ます。／○庭先きに友の丹精の朝顔が朝風に微笑して造化の神の恵美を頌へて居る。／つる草は三尺のびて五月雨／一句記して二、三枚ハガキを送り出す。夏は暑苦しいが、私は夏を愛する。不自由な身体の動きが軽くなるからである。／○毎年夏には一度は屹度御訪問下さる徳島の古角先生、今夏は御出下さる事が出来ぬからとて、『長田師に捧ぐ』と前書した誠に謙遜な原稿を賜つたので掲載いたしました。共に先生の私共に語られんと欲せられる処を、味ひ訓へられたいと存じます。／○恩寵の花片は三宅老兄に材料を頂き編輯子が綴つて行きます。相当に長篇になると存じます。醜い病者の全生活は決して美しい物語ではないと存じますが、又、参考として御読み

下されば無駄でなからうと思ひます。／○八、九年つゞけて脳を病ひ、耳も遠くなつてゐたのが、此処二、三年スツカリ気持よく、耳も能く聞えてゐたのが、最近はや、火気を頭上に置きて絶えず押しつけて居るやうであり、耳も大分遠くなつて来た。肉体のあらゆる処を犯されるから、負けん気でウンと働くのである。勝負の決定は神の前で見る事と信じてゐる。／○キャンプ生活が流行する。山の気は清らかである。神の美の自然に座して祈る、何と言ふ崇高にして平和な絵であらふ。雷鳥に道問へば白雲の彼方に靈峰ありと答ふるか、消え残る雪は神代の事も知るであらふ、若人よ自然の中に座して神に祈りなさい。／○本誌を愛し用ひて下さい、近く部数を増刷せねばなりません。栄光神にあれ、アーメン、では皆さん、今月はこれでサユナラ致します。御健康で御幸福で前進を祈ります。」

**会計係「感謝欄」『霊文』第 202 号, 1935 年 9 月 10 日**

「一、金壹円也、大阪、聖光会様／一、金六拾錢也、京都、高橋芙蓉様／一、金六拾錢也、若松、小林マスエ様／一、金六拾錢也、大阪、竹沢富枝様／一、金壹円也、広島、協同婦人会様／一、金弍円也、伊予、谷泰吉様／一、金壹円弍拾錢也、東京、小林たい子様／一、金壹円弍拾五錢也、神戸、高田てる子様／右、御礼申上ます、会計係」

**\* 「編輯後記」 同前**

「○早々各地の皆さまより、『暑中御見舞状』を頂きまして有難く存じます。当方よりは本誌を以て御礼にかえたいと存じます、甚だ勝手に恐入りますが、平に御海容の程を願ひ上げます。／寝過して冷え覚えけり涼台／○盆の月夜は踊る月夜で鳥でも踊つて居ます、一日の編輯に疲労した耳にグランドの音頭やハヤシが響いて来ます、其処で一作！／大島よいとこ／涼かせ吹きて／松は琴ひく／海つゞみうつ／笛を吹くのは／若い衆達よ／月に踊るのは／娘のむれよ／憂きも病ひも／この世も忘れ／胸に充ち来る／

歌ごゝろ／ヨ－イ，ヨ－イ／ヨイトコナー，ヨイトコナー，ヨイトコナー／○目蓮が母を餓飢道より救はむ爲めに供養したのが盆の起源なりとは伝説である。亡者を供養するのも悪くはないが……生きて居る内に天上界へ昇れるやうに……用意をする事が更に大切である。特に他人の唯一人をして死後極楽に這入らしむべく努力する事は、千万の盆供養にまさる善根であると信ずるものである。斯くて地獄を全く空にするのがキリストの十字架の生命である。／○伊太利とエチオピアとの戦雲は人種戦となる憂ひがある。伊太利も他国に迄ファツシヨ強制を以て行つては面白くなからふ、ファツシヨなど政治の変態である。ドイツが財政に大分行詰つて居るらしい、カトリックやユダヤ人を打叩いても梅ヶ枝の手水鉢であるまいしお金子はないであらふ。／○噂によるとソヴェート露西亞には『宗教の自由』が許されたと聞く。彼の農奴らはタイラントよりタイラント（暴君）への結果となつて帝政時代と別に差はない、其上に宗教迄とられては全くヤリキレナイであらふ。人間と神とは肉体と精神と以上に深い関係である、是れを断とうとは出来ぬ相談だ！／○拙著『砕けて結べ』なり『雲なき空』は大好評で飛んで行くとの事、何卒唯一人にて神と結合して下さる葉ともならば、最初の祈りが成就するのである。／○今月は山本兄より沢山原稿を頂いたが、一度に載らないので次々の号を追ふて発表させて頂きます、又、皆様から歓迎されてゐる『冥想と祈禱』も紙数の都合にて載せ得られませなんだ。次号に於て埋合せを致し度いものであると存じます。／○修養団支部の『ツバサ』を発行いたして居りますが、貧弱でお目にかかる程ではありませんが、療養所に印刷機が出来れば形体内容共に完成して、本誌の姉妹誌として皆さまに御愛読を頂き度いと祈つて居ます。『ツバサ』は極く平たく俗語体で砕けて結べの如くにと存じます。神ゆるし給へば！／砕けて結べ／大阪北河内郡交野村／交野愛汗塾／雲なき空／名古屋市流川町／一粒社／○頭痛の烈甚で、此

日頃はぬれ手拭を四六時中頂きつゝ、ペンを執つて居ります。耳は鳴る目はかすむ、面白い事に成るものであると、肉体と言ふ機械の事を考えて居ます。仕事前に祈りて掛ると不思議な力に充されて来まして五拾枚、七拾枚の完成が見られます。／後は大疲労で暫時は倒れますが……御用ツ……との命で又飛び起きます。／○残暑の候、皆さまの御清福を祈ります。秋は刈入れのとき、秋は冥想のとき、何卒益々御精進の程を祈上ます。』

会計係「感謝欄」『靈交』第203号，1935年10月10日

「一、金拾円也、兵庫、佐藤楨雄様／一、金壹円也、高松、高橋七五三様／一、金拾円也、神戸、沢木様／一、金六拾銭也、愛媛、橋新様／一、金壹円也、徳島、大野鶴一様／一、金拾五円也、倉敷、林源十郎様／右、御礼申上ます、会計係」

\*「編輯後記」同前

「○秋も更けて来ました、本誌が皆さんの御手許に届く頃は小寒むくなるかも知れません。脳を病むので起きたり寝たり致して居るので怠気であつたが、出来上つて見ると中々立派な内容で嬉しく思つてゐます。／○聖書研究欄を作りました、今すこし簡明にして實際生活へキリ込んで頂きたいと思ふ。追々と味が付きませう。ではサヤウナラ」

\*「感謝欄」『靈交』第204号，1935年11月10日

「一、金六拾銭也、静岡、前田平作様／一、金壹円也、大島、奥村竹一様／一、金壹円也、姫路、エカク様／一、金參円也、広島、協同婦人会様／右、御礼申上ます。』

\*「編輯後記」同前

「○春の趣き夏の炎暑、どれもこれも嬉しいが秋は又よい、虫もよい月もよい、日本はよい国であると思ふ。芒の穂の微かにゆれるのを見て居ると讚美歌が唄ひ度くなる、さぞ今頃は稲の垂穂が房々と波うつて居やう。私は郷里の風景なり人情が思ひ出される、柿が赤くなると百舌鳥が鳴く、川霧が朝空に立ち昇ると山が紫に匂ふ、

私は矢張り農村がなつかしい。／○故郷を出で二十七年、限りもなく彼の山河が恋しい、父の墓は草紅葉の中に立て居やう、多くの有縁無縁の墓石に隣して。母は何処に住まれるか……私が癩病穂波としてペン戦を始めると同時に『行衛をくらまされた』、それには深い事情がある、熱い涙がある、能く知つては居れど、私の心は淋しい涙をにじみ出して来る……。／○無くてならぬものは唯一つなり……本当にさうだ、この聖言に一点の曇もない……しかし何歳になつても母は恋しいなつかしい、人情の真である。秋は私の心を癩者としての現実に甦らしむるのを覚ゆる……この淋しい想ひが更に深く主キリストの十字架に向はしむる、そして彼れの救ひ、愛の内に永遠の世界が輝く、その輝く中に母の姿を視る、姉の姿を視る、父の兄の姿を視る、あゝ感謝である、ハレルヤ、アーメン。／○今月は会創立二十余週年紀念に当る、しかし編輯は平常の通りに出来る、幸な事である。特別に人気取りを為さずとも、恵みは一杯である。私には『病臥』と言ふ事も大なる賜であつた、苦痛以上の光榮であつた、病氣さへ是れだ、大丈夫である、天下に恐るべき不幸はなし、凡てが光榮化である、活ける神への信仰は全世界の富に勝る事は体験上より確信した。／○伊太利とエチオピヤと戦争する、地上のわずらいである。両方が神に勝利を祈るが、神さまは定めし難義な事であらふ。正義は我儘な叫びや宣伝ではない、神のみが所有して居られる、兎に角に伊太利の如き強国が無理をすると不可ん。／○病友は大方がエチオピヤに勝たしたいとヒイキして居る、これは弱い者への極度の同情である……此処にも自分の境遇より……無意識に流れ出しものがあるらしい。それはそれとして、日満問題と同一視する如き伊太利の口吻には甚だ受取り難いものがある、日本精神がなげなく泣くであらふ、其処いらと一口にして貰ひ度くない！／○ソ満国境での出来事は甚だ面白くない、何となく神経にさはる問題である、東洋の平和は大切にせねばならぬ……然し世は未だ黙示録

の予言の如く、処々に地震あり飢饉ありストライキあり、戦争の噂を聞かん、且つ偽キリスト沢山に現れん、そしてアルマゲトンに行くと、その如くなりつゝある。／○しかし、我らは祈りて聖言に目を醒し、主の御再臨の光輝の中に見事に這入る者とならねばならない、信者の希望は地上の暗黒の深むに反比例して、強く輝いて来るでないか、一人も落ちる事なく及第して永生をとらねばならないぞ……。／○大分、体も丈夫になつた、耳鳴りと足傷とは未だ全治せないが痛みが半減した。此処四、五日の中に百枚の原稿紙が郵送して無くなつた。書いても書いても何程でも入用だとばかり要求がある。斯くて活して下さる神に感謝する。タイクツと言ふ味を近年は知らないのである。／○今月号も生れ上つた……神よ用ひ給へ……何卒皆様、御読了の後は五厘フンバツして、誰かに御送りして用ひて下さいませ。現世には本誌の千や二千の部数の必要な病者はある筈です。私方より無断で送りましたら遠慮なく御読み下さい、貴下へ進呈致したいから送るのですから。／希は神の御恵み、各位の上に豊に祈ます！」

＊「感謝欄」『靈文』第 205 号、1935 年 12 月 10 日

「一、金参円也、愛媛、宇高宍様／右、御礼申上ます。」

＊「編輯後記」同前

「○クリスマスが来た。兎に角く歴史上の救主が誕生した、実際として御祝ひするのは当然過ぎる事である。一切を忘れて思ひきり幼心に帰りて、只の一夜でも暮し度い、もう大分文明にもアキガキタ、ゴツタガエシて居る戦争気分、殺し合ひの話にもウンザリした。聖なる平和の歌の中で天国の夢が見たいものである。／○物売るためのクリスマス、金儲けんとての飾物、悪魔も近頃クリスマスを為すと言ふ。矢張り家庭で祝ふのが一番ピツタリするのではないかしらん。自分も家庭があつたらイモでもフカして洪茶をくんで、思ふ存分に歌ひたゝえ度いと思ふが、家庭がないから独り歌をうたつて祝ふかな……



家庭のある人は好いなアー。／○今号はクリスマス号だと言ふのに、クリスマスの祝辞も書かずに何を書いた……知らんでよ、祈つて居ると書けよとて、『偉大な云々』長い表札を与へて下さつた、何に役立つのでせう、彼の方は知つてゐられるに間違ない、何人かに必要な事であらふ！／○窓外の庭に黄菊に白菊に紅菊にと見頃に咲き香つてゐる、皆葉は青い、丈の高いのや細いのやが目立てゐる。菊は植物学上一番進化したものと言ふ……御皇室を思ふ、御仁慈が新たに有難く思はれる……こんな皇室を賜つた神に感謝する。アーメン／○エチオピアの噂のいきぬけがして、今度は隣邦の問題が噂の種子となる。これはマユゲの火だから無理もない……何とか戦争せずに仲好く解結せぬものか……同じ神の生みし子と言ふ事が早く信じられて欲しい、全地球の人みなに！／○しかし、予言は必ず成就する、これは信ぜざるを得ない事であるから致方がない、そしてアルマゲトンと言ふ地球分目の大戦争が記されて居る。兎に角も赤化思想の無神論に其根があるらしい。そして今では赤色ギャングと成り下つてゐる。クロボトキンにもマルクスにも、バクニンにも自分の知る限りでは大きな愛はあつても、ギャングなどは決してない筈だがなア……。／○立派な思想や哲学でも神をぬくと、結局ツマラヌ道へ走り込むでしまふものだ。これが恐ろしいのだ。名は何でも同じ事だ、神なきものは皆をそろしい結果となるのだ、だから大胆に……神の大道……を示して行かねばならぬ。神は利用するものでなく信じ従ふべき事も叫ぶ必要がある。／○海渡る風が肌をさす。ペン持手が霜フクレで丸くなる。しかし脳が快くなつたのでトテモ嬉しい、『実際の闘病法』を四、五百枚書き度いが、トテモ忙で手がつけられない、有難いことだ愚者をこんなに活かして下さるのだ、慾は言ふまい、矢張り導かるゝまゝに従順たる以上に尊い生活はないのだ……みなさん御幸福に……さようなら。」

会計係「感謝欄」『靈交』第206号、1936年1月10日

「一、金壺円也、愛媛、矢内原安昌様／一、金六拾銭也、神戸、鎌田吉平様／右、御礼申上ます。会計係」

\*「編輯後記」同前

「○人なみに新年を迎えさして頂く、皇恩と神恩に真に新らたなる感激と感謝の念に充たさるゝ。過ぎし一ケ年を振り返りて、只もう愚弱と不信との足跡の恥しさよ。それにひきかえて何と言ふ神の愛の温かさぞ、深さぞ、こまやかに御守り下さつた。神によりて神に生かされたと言ふ他の何があらふ。噫、涙々歓喜の涙である。／○お芽出たふ……徹頭徹尾お芽出たい人間になりきたいものであります。すれば世の中は泰平である。神より来る凡ては皆お芽出たいものばかりである、それが正月が済むと早や、お芽出たく無くなるのが不思議でならん。救はれて居らぬ証拠ですな……神に全任してごらん、貧乏も病気も何もかも一切が御芽出たくなる。私はお芽出度い人間であると言ひ得る人こそ幸福なり。／○山々の頭部が白銀に輝くやうになると、海から島へ冬が這ひ上つて来る、オー寒い。しかし、フロツクを神によれる愛によりて頂いた。天下にレブラ多しと言へども、フロツク一式に身をカタメて常に働くものは、穂波一人であらふと思ふ。お芽出たい、神が着せて下さる予想外の賜物である。『何も持たざるに似たれども、凡の物を持てり』である、先年は奥村清一様より五ツ紋の一重ね頂くやら。穂波は自分の知らざる処に富ありと言ふ有様である。／○神さん……万歳！／御皇室……万歳！／日本民……万歳！／全人類……万歳！／○十年には中々に書いた、彼方よりも此方よりも『送稿せよ』と活かして下さつた。自分は何を書いたら良いか知らない、たゞ祈つてゐると与示されるで其儘に書く、何んで必要なのか自分は知らない。此処に体験した事は自分で自慢で書いたものは全部失敗であつたと言ふ事である。今年は祈つて書かして頂くのみであると確定しました。

／○この欄は、『わたしの頁』として楽しい赤裸の場所だ、頭もヘソも尻もマルダシである。何と見ても自分は普通の人間以下だ、一寸と気のキイタ虫だな。こんな者のために、神は十字架に釘つて迄も……と思ふと底なき愛の救ひに熱涙があふれて来ます。／○活かさるゝ処に必ず使命がある、信仰には久遠の希望がある。斯ふして初日を仰ぐと、自から勇んで来る力強い生命を内に感ずる、福音は生命の上に於ける神の約束として疑えない……今年も我れ生くるに非ず、キリスト我れに在りて活くるなりだ。／○この上とも皆さんの御加禱を願ひ上げます、今年は大いに變つて、神に深く御願ひ申上ます。／各位の御清福を祈りつゝ、擱筆いたします。／靈交誌……万歳！／愛読者……万歳！」

＊「編輯後記」『靈交』第 207 号，1936 年 2 月 10 日

「○毎月十日発行である本誌の二月号原稿が、七日になつて行衛不明に成つて居る事が知れて、編輯子としては……十方に暮れて泣くにも泣けない心持ち……がしてあります。／○每号を心待ちに待つて下さつて居る愛読者の皆さんに対して、『心も心であります』、未完成の下書きの原稿を以て急場の責めを埋める他に致方なく成りました。／○感謝欄も沢山にありますし、赤心込めし原稿もあり、カケガエのない記事や詩歌もありましたので、投稿家に対しても申訳ありません、斯の責任は重大であります事を思はれてあります。十分調査して頂きませう。／○調査の上にて原稿発見いたしましたならば、次号として御目に掛ける考へで居ります。何処かに必ず有る筈であると存じます。兎に角、御役所の方で御努力を仰ぐ他ありません。／○嚴寒にて室内零下三度、戸外は八度まで温度が下りました。二十年目のことでありまして、魚界にも異変が起りしと見えて、鯛の凍死体が漂着しましたとかで、島にフサワしい鯛ひろいの噂で持ち切りであります。／○昨夜より降雪にて美しく積もつてあります、然し、原稿フンシツの穴埋めに詩想も何もなく懸命にペンを走らしてしま

す。どうか十日の発行の間にあへばと祈つてみます。／○皆様の御健康と御精進とを祈上ます。」

會計「感謝欄」『靈交』第 208 号，1936 年 3 月 10 日

「一、金貳円七拾錢也、神戸、高田てる子様／一、金壹円也、堺市、花本秀夫様／一、金六拾錢也、愛媛、松岡貞蔵様／一、金拾壹円參拾錢也、岡山、佐藤邦之助様／一、金貳円也、京都、吉田義子様／一、金九拾錢也、岩手、三浦信一様／一、金貳円也、松山、青野兵太郎様／一、金貳拾円也、高松、エリクソン様／一、金壹円也、高松、六車千代子様／一、金五円也、高松、形見千代吉様／一、金壹円也、高松、森川なか様／一、金五拾錢也、高松、中野太助様／一、金拾円也、岡山、田中文男様／一、金貳円也、東京、田中儀太郎様／一、金貳円也、千葉、高橋音市様／一、金壹円也、福岡、近藤悦様／一、金貳円也、東京、宇津木勢八様／一、金拾壹円六拾五錢也、香川、三本松教会様／一、金貳円也、大島、奥村竹一様／一、金壹円也、香川、坂本皆之助様／一、金參円也、群馬、内田久治様／一、金壹円也、神戸、南沢セツ様／一、壹円也、香川、高橋亀太郎様／一、金六拾錢也、愛媛、橋新様／一、金六円也、京都、志村卯三郎様／一、金五円也、神戸、基督教会様／一、金壹円也、朝鮮、高瀬時助様／一、金參円六拾錢也、東京、浅木春見様／一、金壹円也、東京、矢内原忠雄様／金貳円也、伏見、メソヂスト教会様／一、金壹円也、丸亀、組合 SS 校様／一、金壹円也、(不明)、生水もと子様／一、金壹円也、樺太、岡平太郎様／一、金壹円也、神奈川、岩本まつ様／一、金五円也、大阪、佐藤楨雄様／一、金壹円也、高松、山本シメ子様／一、金壹円也、高松、形見正太郎様／一、金五円也、高松、三番町教会様／一、金七円也、東京、ウセタロー様／一、金六拾錢也、高知、大坪虎意様／一、金五円也、東京、駒込教会様／一、金貳円也、大阪、広瀬広治様／一、金貳円也、多度、津鹿角義助様／一、金參円也、大阪、西田

五郎様／一、金式円也、高知、谷愛美様／一、金式円也、高知、玉井友治郎様／一、金壺円也、高野、信原文雄様／一、金壺円式拾銭也、高松、山本徳義様／一、金四円八拾壺銭也、滋賀、堅田SS校様／一、金拾円也、東京、富山タオ様／一、金式円五拾銭也、三本松、柳沢様／一、金壺円五拾銭也、福山、小川謙太郎様／一、金壺円也、鳥根、加茂婦人会様／一、金壺円也、鳥根、大東教会様／一、金七拾五銭也、鳥根、木次SS校様／一、金五拾銭也、鳥根、三成所伝道様／一、金七拾五銭也、鳥根、栃木牧師様／一、金壺円五拾銭也、滋賀、西井智与様／右は、昭和十年十月十一日以後に頂きました。／昭和十一年二月十一日迄の御礼申上ます。会計／尚ほ物品の御寄贈と個人宛の御送り頂きしものは記載致しませぬが、神の恵み御栄光の器として大切に使用させて頂きます。特に厚く御礼申上ます。編集部にて(穂波生)』

＊「編輯後記」同前

「○二月号の原稿をお役所に紛失せられた、然も発行日押迫つて印刷所へ問合せし処、『原稿未だ送附されず』との返信に驚き、お役所へ御調査願ひし処、『わからん』との御言葉に俄にホゴの如き原稿を新記して差出したが、今度は印刷所が、『選挙で多忙』と来て大変に遅くなつて終わりました。／○二月号の原稿が出て来れば三月号に振り替へ度いものと(記事を惜しまれるので)、お役所へ是非今一度御調査をと願ひましたが、『無い』との一言の直答を頂きしのみにて、其後何らの御挨拶もなし。／○斯くて一寸不快な気持を抱いて本稿を認めて居ります。一枚の原稿も祈と努力との結晶で相当の陣痛をおぼえますし、更に読者の皆様に対して申訳ない事と責任者として心づかひもしました……○○もの、○に○○事の面白さをシミジミと味はひてゐます……然し、是れも確に神の何か私共の知れざる聖旨でありませう。この出来事より何か恵を頂きて一層祈りに精進いたし度いと存じてゐます。／○零下八度の鳥には常に神に反逆する悪魔が恐い権力をもつて冷胆な息気を吐いて居

る、皇室の恩寵に対する熱さえも吹き冷し相な勢ひだ……下界が騒ぐのは中間の雲奴が雨をコボスからである……しかし、恩寵の太陽は変りなく灼熱だ、この神恩皇恩に対する感激の信熱を以て、身も心も霊もあたゝめ忍び耐える事であると誰か言ふ!／○春は近し……春は近し……時は刻々に神の指と共に伸びつゝある、やがて雲散霧消し恩陽の下に花咲き鳥唄ふ天地和合の日が来るであらふ、『信者の忍耐こゝに有り』である、患難にも喜ぶそは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ練達は希望を生ずと知ればなり、希望は恥を来らせずとは、特に信者の体読すべき教訓であると思ふ!／○『天か?、地か?』は下記して未だ十分に考察し訂正し清記して完稿すべきもの……今度の原稿異変で俄かに出しました……要は何宗と言ふ気持に止る事なく、活神の火による生命の更生と言ふ事である。世には人格と生活の向上か向下かは問題にせずして、何宗と言ふ名目と感情とに支配せられてゐる信者が多い……斯る者が真の信仰者を能く迫害するものであります。／○科学の進歩と人智の向上にともない、宗教も『仏心なき』また『神の生命なき』、単なる感情即ち自宗ヒイキ気分など、心ある人より響感さるゝのみである。今後は名よりも質でなくてはならぬ。真の信仰は人間の質を向上さす筈である、この大切な点を考えよりのけ易い事を恐るゝ者である。／○靈交誌は神の器である。中には、『誌代を気にして』居らるゝ方もある、然し、御送り申上ましたら誌代など気にしないで御愛読下さるやう、万一御自分に御不用ならば誰か悩める人、病める方へ御使用下さいませ。たゞ一人を慰め得ますならば、金銭にかえがたい光栄と信じてゐます。／○神の業は神の聖旨が為し給ふと信じます。聖旨ならば益々伸びませう。聖旨ならば中止されませう。神あたえ、神とり給ふ、神の聖名はほむべきであります。私共は神の聖名を讃めて進めばよいのであります。／○穂波は大鳥一とならむ?野心がある……と思つたり言つたり為る人があれば、今一步進めて穂波は世

界一たらむ野心家でありますと思つたり言つて貰ひ度いものです、『俺は世界一だぞ』、其方が可能性が多いやうですから……いゝ気なもんだ……呵々／○兎に角、祈り一つに善悪を打込め置いて、皆様の御精進を御加禱を祈上ます。(完)』

＊「編輯後記」『靈交』第209号、1936年4月10日

「○常識々と八釜敷い現代に『靈交誌』ぐらひはイサ、カ常識はずれが存在しても面白からふ。非常識と言ふても決して狂乱ではない、或る意味からして是れが常石にハマツて行くのかも知れない、生命の空よりの尺度に一致して進みたい。／○黒土を突き破りて物の芽が萌えあがつて来た、全地に復活の若々しき咲笑と足音とが充ち溢れてゐる……イキスターだ……古い革袋は最早や無力である、新しき生命は醗酵した、ドエライ力と張りだ、時代も改つたのだ、靈交よ新しき革袋とならねばならぬ、活ける生命を盛らねばならんよ！／○クリスト教は犠牲の十字架一つが全部である……犠牲の生命……これが神の掌中の珠である。天皇陛下に対しては『忠魂』となり、同胞に向つては仁義となり、父母に対しては『孝』となり、仕事にとりては熱心努力となり、全人類に愛となる。あらゆる道德の『実行力』となるのである。／○何事が起つても……如何なる場合にも……動せず負けない生命、死よりも強い生命、これが大切である。黄金と学問と兵力のみで国は高く保てるものではない……信仰に立つ死よりも強い生命……こそ『愛国』の基石である。地上より高い生命こそ地上を完成保存する光明である。／○地球上の現在……物質より高く頭を挙げて天来の光明を呼吸してゐる生命者が見えなくなつた、真暗い中で軍備の経済のと迷ひ合へる……此の暗黒を破つて輝く光りは何処よりぞ……滅亡の全地を完成保存するは誰ぞ……問へ、問へ、神に真の神に！／○門を叩けよ開かれん……祖国の爲めに我等は門を叩かねばならぬ、光榮の使命への高揚を頂かねばならぬ……東より光を呼び起さ

ん……聖言に希望多しである。目標は『全世界の救ひのために日本の靈的高揚』である。大きいぞ、大きいぞ！／○俺が大きいと言ふのでない、『神の救愛』が大きいのである。大きな神の教会が蒼い面して経済に苦しみ、分列してゴテゴテ言ふて領分の荒し合ひ等やつてゐる……何のざまぞ……十字架の光榮を（殉教）喜ぶ者に同盟より合同へ進めぬ事があるものか。／○靈交会よ……お前も心せよ、小さい自分の光榮など常にカナグリ捨て居れ……たゞ神の光榮のみ希ひ、キリストの崇められる事を以て唯一の歡喜としやう……。お前の爲めに何事もする勿れ、神のためにのみ為せ、キリストの生命を叫べ……。／○恩寵の花片は紙面の都合で中断の形になりましたが、記事の都合で最少し続け度いと思つて居ります。『大島便り』も復活いたし度いとも考えて居ります。理想は高し鼻低しと成りますから、兎に角大した理想も持てみません、只に追ひやらるゝまゝに懸命に走つてゐます。／○靈交は療養所の実相とでも言ふもの、殊に発病当時の暗涙記とか救はれた証言とかニアツてゐるかも知れませんが……編輯子を先頭にして、『現在の自分に捕れてゐない』、救はれて自分より向へ行つてゐるのらしいのです、『壯健者は御気の毒』と思ふ事が尠くないから不思議であります、思ひ上りかも知れませんが、反省、反省！／○今日は二月の末であります、不便な鳥ゆえ印刷溜め（一ヶ月早く）発行するやうに致し度いと存じまして、四月号の編輯を大方終りました。紛失して居た原稿が出て来ましたので、二月にお目にかかる筈の記事が二ヶ月をくれました……真理は古びず……勝手な理屈を付けて良い気なものです……呵々／○穂波に送稿を御求め下さる方は啓示さるゝ儘に認めてゐますが、余り上手ではありません、寧ろ下手糞であります、書かして下さいれば悦んで書きます。尚ほ、靈交の内に御氣に入つたものがあれば、『転載は御自由』に願ひます、たゞキリストの爲めのみより考えませんから……。／○花に狂ふ時が迫りました、地上の花より天上の花、

生命心の花、の花に狂ひ度いものであります。我れ狂へるに非ず靈に属するなりと、言訳しつゝ、伝道した人が恋しく存じられます。皆様の御精進を祈上ます。」

**\*「編輯後記」『靈交』第 210 号, 1936 年 5 月 10 日**

「○天か? 地か?, は一冊の単行本として出版いたし得ればと思つてスコシ宛記して有りましたのが半端に成りましたので、一層のこと一と思ひにと今号も全面を埋めました。未だ言ひ度い題目が残つてゐます、決して空想ではありません、小さい者の体験より出し信仰であります。今年は今時々の天か地かをお目にかけてませう。／○二月も三月も四月も皆この天か地かの一部を分割したのであります。花の下ゆく人々も醒めて静かに天に聞くべき現在でありますまいか、自然の春にヒキカエて人世社会は『平和の花』を散らすやうな狂嵐の兆が西に東に視へてゐます。／○福音が行詰る事はない、キリストは研究するもので無く『活る血』である。神の幸福にのみあづかる事を望みて、神の苦悩にあづかる光榮を欲しない教会は必ず行詰る。現在福音のため投石、絶交、勘当、嘲笑、等を味ひつゝ、幾人あるのでせう?／○我らキリストの爲めに死ぬべしだ……キリスト教は何処迄も十字架が中心である、殉教と犠牲の血の用意されてない信仰は死者である。此処にクリスト者の日常生活の様式がなければならぬ。文化生活でない享樂生活でない殉教を目指した生活である!／○予言者本間俊平を頂き読み、真に強偉な信仰人格に自ら頭が下りました、彼は殉教者である、日々殉教の道を歩んでゐる姿を発見して、『真のキリスト者』であると思ひました……いま業根譚と碧巖録とを読んでゐます、又別な味を覚えてゐます。／○私共は何の走場に立たふとも今日と言ふ日が殉教生活である、地上には永住の個所はない、『地に於ては旅人なり宿り人なり』である、此処に『生活の単純化』がある、斯の生活単純化は即ち經濟生活である。示すべし示すべし、教会は世の光り、地の塩なりである。

地に求むる者は地の祝福を失ひ、天に求むる者は地の祝福を得ると言ふ聖言は實際問題として示さるゝのである。／○永い寒波の下にツチカヒ育てし祈りの火を、いまこそ天下に燃やませう。十字架の生命を活歩いたしませう。死も又をそるゝに不足である、その前へに先ず各信者クループの内に宝血を充ち渡らしめませう、親族よりも濃き『兄弟姉妹としての実』を生活の上に行ひたいものであります。／○特輯として五月号を御目にかけて。狂へる本紙に対する御存分の御感想なり御叱訓なりが頂けますれば、有難い事と存じます。何卒御加禱と御深愛下さいまして、更に前進さして頂き度い。皆様の御精進を祈上ます。」

**会計, 三宅生「感謝欄」『靈交』第 211 号, 1936 年 6 月 10 日**

「一、金五拾錢也、愛媛、橋新様／一、金壹円也、広島、海田市婦人会様／一、金六拾錢也、大阪、辻政子様／一、金六拾錢也、伊予、橋新様／一、金壹円也、広島、海田市婦人会様／一、金參円參拾錢也、カナダ、鵬本正信様／右、御礼申上ます。会計、三宅生」

**\*「編輯後記」同前**

「○大島開闢以来と言ふ出来事……それは役員と看護婦さん達の大一座の慰問芝居、私共病者は悦ぶまい事か、数日前より大評判で開幕の日を待ち憧慄てゐたと言ふ有様、時は四月一日とて開所記念日、祝賀式やらゴチソウやら、イヤガ上にも人気はあふられて、行くワ行くワ、大入満員超満員であつたと言ふ。『桜井駅の楠公子別れ』とか『梅川忠平封印切り』とか『弁慶何とか』言ふムツカシイ芸題を見事やりこなしたので、見物人一同、感に入つて『マアーよかつたわ、面白かつたわ』とて、タレヤラさんはチャリが上手だとか、何看護婦さんは玄人のやうであつたとか噂とりどり(筆者は体の都合で御無沙汰した)／○南無仏の碑のある隣接地に立派な『納骨塔』が建ちつゝある。本誌が読者諸君の御手下に届く時分には完成するでせう、真言宗と本願寺との共力とか承るが、有難い事で

あると思ふ……故小林所長殿の『胸像』も近く出来るとの事、これも本誌の発送頃に見らるゝかも知れない……皇太后陛下の御歌の碑も先日土台が出来てゐるから、『入江閣下の絶筆』が碑面になるのも近いであらふと思なれます。／○霊交会は会長がキリスト様であるから会長の改選はない、然し協議員十二名の改選が四月にある、その結果は、三宅兄、石本兄、高本兄、藤田兄、天沼兄、山本兄、林兄、日野兄、内野兄、桑田兄、森姉、穂波、以上／○保育所の大戸君が徒弟に兵庫県へ引取られて行かれた。現在全国に健康な『未感染児童』が幾人あるか知らぬが、血族開放の第一歩として大きな役割であると思ふ、これで六人振りである、最早や保育所には親切な引取手が顕れても、子供が一寸と品切れの型だと言ふ、斯く迄に私共に御理解下さる修養団同志に対して、感謝の念はいよいよ深くなさざるを得ない、患者全部の喜悅であり感激であり感謝である。／○カナダの鵬本兄より御通信があつた。過日の帝都事件は彼岸の同胞に大なるシヨツクを与へ、大いに人心動揺してゐるとの事であつた。察するに余りある事と思ふ、これも日本のクリスチヤンの無力をイマシメられし事であるまいか、いよいよ醒めて祈り、且つ福音に活きねばならないと思ふ。／○『靈交誌』を少し早目に発行する事に致しました。四月の初めに五月号を、五月の初めに六月の本号を差上ります。其処で記事が先きへ先きへと走りますが、妙な処が出来ましても御辛棒を願ひ上げます。／○編輯子は『近く召さるゝ』と言ふ気持で毎日を迎えて居ます。其処で一生懸命につとめて居ます、自分ながら不思議な事は、『この肉体でよくも活きられる事』であると言ふことであります。よく『土くれの如き』と言ふが、自分の体は余程マゾイかたまりと化して来た、鍛冶屋の金糞のやうな男と化した。不思議な生命に凡を懸けて、今日一日に生きてゐます。皆様御きけんよう！』

### 会計、三宅生「感謝欄」『靈交』第212号、1936年7月10日

「一、金六拾六錢也、東京、菊田正一様／一、金壹円也、広島、海田婦人会様／一、金九拾錢也、栃木、松村ゆき江様／一、金壹円五拾錢也、京都、伊賀貞子様／一、金壹円也、大島、奥村竹一様／一、金拾円也、京都、佐伯理一郎様／一、金貳円也、倉敷、高戸猷様／一、金六拾錢也、高松、十河しず江様／右、厚く御礼申上ます、会計、三宅生」

### \*「編輯後記」同前

「○私の好きな夏が来た、暑さは嫌いであるが夏は好きである。身体が重圧な衣服より開放さるゝからである。麻痺がうすらひで不自由な体が助かるからである。汗を流しつゝ原稿かくのが面白いと思ふ！／○私が夏を愛すと言ふと……否、冬が宜敷い、寒さは炬燵で防げますが暑さは防ぐ処がないと言ひ給ふ人が多い……遊ぶ人と働く者との悲哀である。兎に角、私は夏を愛して一代過ぎして頂き度いものと祈る。／○京都の佐伯博士が御来島下さいまして、『菜食主義』を御教へ下さつた。実行して見ねばと、バナナの皮ごと喰つて見た処。馴れぬ精が妙な味がして兎に角も余りおいしくなかつた、お腹の具合は甚だ好かつた、其処で今後は皮ごと喰ふ事にした。めつたに喰べぬが喰べるとなると一度に三百目もやるのであるが、皮ごとゝなると精々三本であるから第一経済的でもあると感心してゐる最中であります。／○食ふ事を言ふのはキタナイ等と虚栄な言は廢して、『貧乏人も喰て益ある事』を考へる事は現代に必要なと思ふ。殊にソレが信仰に基と来ては更に尊い、斯る滋養と経済と信仰とを一致した研究は、益々盛んに成つて欲しいと思ふ、真に福音であると信じて佐伯博士の爲めに祈るや切であります。／○議會開院式に当りて賜りし御勅語は、我ら国民の恐懼をくところを知らずであります。最早や一刻もゼツトして居られない、身命を賭して福音の爲めに尽すべきである。議論は無用である、『祈』と『宣教』である。古代国附の神道も日本仏教

もキリスト教も何の面目があるか……特に我らキリスト信徒は少数なりといえども、『同胞の救ひの爲めならむには地獄に行くも甘んずる処』と叫びしパウロに対して面目ない。をりあるもをりなきも、福音を述べずばなりません、各位の御奮起と御精進を祈ります。』

会計「報告欄」『靈交』第213号、1936年8月10日

「一、金六拾錢也、栃木、村松雪枝様／一、金弍円也、香川、匹田康則様／一、金参円也、京都、南石福二郎様／一、金壹円也、東京、中村恵様／一、金壹円也、広島、海田婦人会様／一、金弍円也、兵庫、名和金次郎様／一、金壹円也、呉市、中山国三様／一、金弍円也、高松、高島イロ様／一、金六拾錢也、若松、小林ます江様／一、金弍円也、愛媛、平尾権之助様／一、金弍円也、豊橋、岡田大吉様／右は、誌代及御寄附として頂きました。(会計)」

\*「編輯後記」同前

「○今夏は例年より暑さ厳しからむとの予想である相なが、近頃の降雨は以前として冷気を保つてゐる。雨の音を窓外に聞きながらペンを執る事は嬉しいものである、感謝心を胸一杯にして祈りつゝ、働く私である。／○ガラにない問題を天か地かで取扱つたが、是は本来婦人より聞かして貰ふべきものであると思ふ、自分の如き立場の者の説も一種の興味ある事と思はるゝ。余り理想的に過ぎると考えらるゝであらふが、果して現実性なき説であらふか……。／○男子の作つた社会制度に対して怨みがある、『男に成りたいわ』と能く耳に為る、斯る婦人の言には実に同情すべき点があると思ふ、要は『婦人に対する觀念の間違』にあるやうだ、とは言へ誰が軽視されるやうにした?、其処に婦人自らの無自覚に半端以上の責はなからふか……。／○従来『感謝欄』とありましたのを『報告欄』と改めました。是れは或る方よりの御注告がありましたので、一考した結果であります、大した事ではありませんが、善意に御解説を願ひ上げます。／○私共のグループには清水兄が脳充血で急逝

されましたが、新に小松兄が加入されましたので、結局は同じですが、救はれる靈に於て一人増加であります。量よりも質である、福音が勝利を得なければ、数の上のみでは駄目であると存じます。目的は『福音の勝利』にあります。／○エリクソン師は婦米せられた、一ケ年は淋しい、良い宣教師であられる、信仰の人格に敬意を払はざるを得ない。在米中の御幸福を祈つて止まない。エリクソン夫人の原稿を頂て居る、次号にて御目にかけるつもり。／○古角先生、根岸老兄、等々のものも載せ度いが、次号に愛割した。本誌の紙質がチリガミ級だと言はれる、然し、内容は如何……このチリガミ一千部は中々に威張つてゐる。橘兄等は『靈交よ大いに威張れ』とケシカケるので、尚更に威張りてゐる。呵々／○我は福音を恥とせない、世上の思評よりも神の評訓をのみ心がかりとしてゐます。／暑さの候、みな様の御清健を祈上ます。」

会計、三宅生「報告欄」『靈交』第214号、1936年9月10日

「一、金弍拾円也、東京、植田テル様／一、金五円也、高松、久米その様／一、金六拾錢也、三豊、岩佐誠一様／一、金弍円也、愛媛、平尾権之助様／一、金壹円也、広島、海田婦人会／一、金六拾錢也、京都、樋口光義様／一、金六拾錢也、日比、林麟三様／右、誌代及御寄附として頂きました、御礼申上ます。／会計、三宅生」

\*「編輯後記」同前

「○空梅雨だと心配した向きもあつたが、何と降りました、思ひきりの降雨。また気温も躍り上つたかを見ると、グツと下つて涼しい事も限らない。此頃の天候と気温とは文字どほり不順の候であります。先ず皆さんの御健康と聖戦の御勝利を祈上ます。／○最近の新聞紙は『宗教界人物低下』を種々なる問題にとりて報じて居る、これは一宗一派なり、一宗教家の上のみならず、全宗教全信者の反省すべきことでせう。斯る事を照合して正信者の光輝も判然と現れませうが、不信の徒の躓きは更に大きな事を悲しみます。／○社会悪化、人心荒廢、座視するに

忍びずして飛出した迄は善いとして、狂人走れば狂ならざる者も同態で走る如く、社会救済の狂走に（社会におもねる）足もとを忘れし形である。霊と祈を深める事を怠ると、信仰は生命が無くなる！／○暑い最中にはアツクルしい話は誰しも聞きともない、なるべくは同じ真理でも涼しく話し合ひ度いものです。ムツカしく言はなくても深くは現はせる、兎に角に静かに考へあいませう。人間は生命の健全のため、また更に社会救済のために、時々修道院生活の如き聖書と祈りの中に沈みきる事が必要であります。／○童話から神学まで、犯罪研究誌より重国などの浮世絵まで、種々な随筆より文芸春秋など、科学画報から婦人の友まで、手に出来る限り、時間と体力の耐ゆる限りに目を走らせるのですが、それらを『聖書が統制する』のであります。貴方がソナナ書物を読まれますか等と不思議がらるゝ人がある、斯る人は私を石仏か雲を喰つて生きて居る者かのやうに思つてられるらしい。然し、聖言に絶対の信仰を有せざる人、余りに感受性の強い浮動し易い人は、聖書と正しき解説書の他は読まぬ事が宜敷いと思ひます。私も一切の外部的ものを清算して聖書と其の解説を友として、祈禱と黙想の修道生活に這入り度いと存じて居ります。今後の社会には一ヶ月、二ヶ月ぐらひ短期間の修道院が必要であると示されます。／○夏木立とか海岸とか登山とか、『自然のふところ』に這入りて聖書に親しみ祈りに沈む事は嬉しいものです。決してゼイタクを言ふのでないのです、一日の中の少しの時間を、近くの丘とか林とか川べりとか静かな自然のふところに過すことは尊いのです。電車に乗つて行つても、不衛生なバーとかカフェーに払ふ十分の一の賃金で済みます、殊に休日の如きは、是非とも自然のふところで聖言に親しまれたいですな……青年にお進めしたいと存じます。／○島に住む身ながら足傷のため、大方の日を終日室内に居て、人の顔と家々々を見てみると、タマニ出て海見る見、島山を歩むと何とも言へぬ清々さである。そして、斯の体験が寧ろ、人と

建築と機械の音と食物の匂ひとの圧迫の下にウメケル都会人の精神に同情いたします。イラダツこと、神経衰弱になる事、唯物的になり殺人的に傾く事が、シミジミとおもひやられます。／○東西の聖画の人物は平均して顔が四角に近いやうです……元禄時代と大正時代は丸顔が多い……近頃の人の顔は三角かイビツか角長いのが多いやうであるが、どうでせう、矢張り心の表現でせうね／○病体は発汗する個所が尠くなる、それだけ暑さが苦痛となる、そこで外で働いて汗して居る病者より、寝て居る方が余計に暑苦しむ、焼火鉢を握つても掌と火箸の間に水蒸気が起ると火傷せぬ、水蒸気が起らないと火傷する、それで汗の出ぬ病体は冬は冷たいが火傷もし易いのです。汗にこまる婦人等もありませうが、汗の出るやうに造られてある事は有難いことであります。]

＊「報告欄」『靈交』第 215 号，1936 年 10 月 10 日

「一、金六拾錢也、京都、樋口光義様／一、金參円也、大阪、北村寿四郎様／一、金貳円也、愛媛、平尾権三郎様／一、金壹円也、広島、海田婦人会様／一、金貳円也、堺市、花本秀夫様／一、金九拾錢也、神戸、高田てる子様／右は、誌代及御献金として受納しました。」

＊「編輯後記」同前

「○今年の暑さは一入に酷でありましたが、定めし御疲労の御事と存じます、いまや不順の候にて流行病など出やすき折柄、神恩に強められまして益精々進下さらん事を祈り上ます。御伺ひ申上ねばならぬ芳名二百余方おハガキにしましても書き疲れますので、甚だ難事、誠に勝手極まる失礼仕り居ります。御理解、御海容下さる方のみと信じて新年、寒暑欠礼いたして居ります。何卒この誌上を以て代用おゆるし下さいませ。／○大朝紙の社会主事浜田光雄先生其他関西 MTL の諸先生、諸兄弟を迎えまして一般に御慰問を頂き、更に夕べ静粛に丘上の礼拝堂に於て、キリスト信徒のみの夕聖拝を御催し下さいまして交々も語り、交々も祈り合ひました事は



悦しくありました。／○夏は夏やせ、冬は寒ほそり。骨と皮とのみにて口と目と大きくなつた存在が自分である。コツケイに思へておかしくてなりません、甚だユカイであります。毎日朝五時前後に必ず起きて、夕は八時過ぎには夢路に入る、要するに是は骨がたい生存であると言ふべきでせう……呵々／○友院長島愛生園の問題を聞く……円満解結を祈るや切……相当の意見は持つて居るが、今は黙すべきであらふと考える。同じ癩療養所に住む者として、善悪ともに他人の事とばかりは思はれない。たゞに愛生園の病ひのみでなく、『癩問題全般の憂』である。一日も早く円満解結を希望して止まない。／○人間の作る社会は何処にも病根はある、故に常に上下とも一丸となりて斯の病根を枯らすべく努力すべきである。自分は此の祈の為に力を尽しつゝあるが、案外理解されないものだ。然し、今は時代がちがつて居る、凡て合法的に解結すべきである、でないと皇太后陛下に対し奉り、又、一般同情者に対して申訳がないと思はれる／○雑誌の出版について或る声を耳にした、それはキリスト教内にも雑誌の数が多すぎる上に、ツマラヌ物が多いと言ふ事である。其の為め禍されて、良い雑誌まで軽視され読まれないと言ふ事である。更に、何ら権威も指導力もなき雑誌の多い事によりて、伝道が反つて障害されつゝあると言ふ大問題である。其所で……靈交誌はどうか？／○これは読者各位の御意見が承り度いと思ひます。既に或方より、『靈交は存在すべき生命あり』認とめられました。尚ほ他の人々よりの御評も聞き度い気が致します。元より靈交は一種特色ありと申される人は尠くありませんが、聖句の陳列は致しません、純福音に忠実たらん事、これは我らの信仰であります。斯の信仰の外は、何派何主義などの問題は重しと致しません。キリスト一つ聖霊一つと信じてゐます。／○岡山医大の田中文男博士の御深愛を、会員は特に喜んで居ります。先生が故小林所長の御親友としてのみでなく、癩問題、特に大島療養所の為め、一家揃つて御祈り下さ

る事は島の上下ひとしく感謝に充ちて居ります……私共も御一家の御幸福を祈上てゐます。／○お恵の家も建ちました。つれづれの御歌碑も出来ました。納骨堂も生れました。近く所内ラヂオも生れ出るとの事、誠に有難い事と存じ満悦の態であります……物質的に外部が、とゝのふと同時に精神的に内部を修めないとなりません。これは病者自身の掘り下げねばならぬ問題であると信じます。斯の努力を怠りますと、折角御深愛を寄せて御世話下さる方々の御厚志に反むくやうな事になる恐れがあります。／○さあ十月号も出来ました。確に御読み頂く価値が光つて居ると自惚て見る、これで毎月やれるんだなアと微苦笑する、『阿呆みたいな顔して居るが、仲々やるなア』と面と評されると、何とも言へなくなる……呵々／○スペインの動乱を中心に欧洲各国が渦を巻いて居る。悪魔の子等は常にあれだ、欧洲よ、お前の体内のサタンを追出さねば噛み合ひは止まぬであらふ、ナマ傷は絶えぬであらふ、エチオピヤは不幸だ、然し、伊太利も幸福ではない、伊太利は病根を一つ加えた様なものだ、少し体が弱つたら、病痛は烈しく起つて、悪くすると生命迄とられるだらふ。／○不順の候、皆さまの御健康を祈上ます。」

会計、三宅生「報告蘭」『靈交』第 216 号、1936 年 11 月 10 日

「一、金壺円也、神戸、富田諒吉様／一、金式円也、京都、志村卯三郎様／一、金式円也、神奈川、堤薫一様／一、金六拾銭也、神奈川、小塚みね様／一、金壺円也、広島、海田婦人会様／一、金六拾銭也、大阪、大西きみ子様／一、金壺円也、大阪、浅井治子様／一、金壺円也、京都、大森幸代様／右、誌代及御寄附として頂きました。会計、三宅生」

\*「編輯後記」同前

「○朝顔の一輪ごとに暑さが加はつて、又、朝顔の一輪ごとに暑が退ぞいて行きます。熱波の中に育ち行く菊の一葉ごとに秋冷が訪れ来て雁来紅の葉末々々に色々の露が宿り初めました。自然は神の芸術である、寂々として詩心へと私共

を誘ひ込んで行くやうです。宵月冴ゆる背山に一杯に虫すだく時は、祈り心は空深く昇りのぼりて、我れもなく世もなく聖霊による浄土に遊ぶやうであります。かと言つて姿は見えねども鳴き渡る声にそれと知れる雁金に、何時か心はなつかしの故山に走せて、母に姉にと思ひは尽きません。孤島の生活また此処に涙ありか！／○長島の問題も、をさまつたらし。人の世は深山の奥より沖の小島に至るまで暗い影が動いて居るものよ。おかげで『自治か家族か』問題とし俎上に乗せらるゝと言ふ。それより我が大島の自治会が危険思想が対当局の勢力が我儘をする機構かの如く誤解さるゝ傾向のあるのが甚だ残念である。自治会規約改正委員の一人として、斯く言ふ自分も尽して来たのであるが。そんな間違た悪いものなら十字架にかけられても組するものでない……。／○彼の長島の事件を十三日、即ち起つた翌日に我らは知つたのであつた。早速に評議員の一人として大島の取るべき態度の相談に加里、且つ、室長会の副議長として室長会にもものぞんだのであるが。結局は……癩問題の草分け功労者光田園長の為めに御気の毒に思ふ……然し、友團患者兄弟も深き原因があるならむ……兎も角、時代が移つて居る皇太后陛下に対し社会の同情者各位に対して同じ療養所に住する者として責任が幾分か感ぜらるゝ……更に斯際に何処よりも誤解を受くる如き言行なきやう十分慎重にあり度い……事円満に到着する迄は、団体としても個人としても長島との通信を差しひかゆること……是れを申合したのであつた。／○我らは考えて居る、『本会ハ大島療養所長ノ監督保護ノ下ニ、皇恩ニ感謝シ、国家社会ノ同情ニ応ヘ、互助及相愛ノ精神ニ基キ、会員ノ福祉増進ヲ以テ目的トス』、斯の一条に尽して居るが、是れは大島の古い歴史を有する事、実に二十余年の『娯楽会』の精神即ち家風を条文に記したに過ぎないのであつて、決して、他に適するとは思つて居ない。中には己れ規約に反して或る種のとがめを受けたる感情上、反対気分を有する者二、三あらむも、是

を公平に観て悪い制度とは思はれない。とは言へ他には他の家風があるであらふ、大島にはよくても必ずしも他の療養所に進めるべきではないと言ふ事である。是れ大島一般の考えである。／○十一月十一日は霊交会の設立記念日です。／最初の宣教関係上、現に高松東教会を母教会と為てゐます、派を言へば日基でせう。然し、クループは各派の寄合ですし、野生的で教会規則にをさまり兼ねますので、一種独特な会であります。五、六年前へ迄は一人の役員も選びませなんだが、現在は十二人の協議員を選出して居りますが、今に会長もなく指導者もなく、聖霊の命ずるまゝに各自持場に立つて居ます。毎集会は男女の別なく順番に司会します。感話も司会者の命ずるまゝに立つて致します。／○穂波は今年の暑さにイサ、カ参りました。疲労を覚えますが霊気は益々盛んで、押へ兼ねる位いです。御安心下さい、更に御加禱を願ひ上げます。内村鑑三先生、藤井武先生の著書は何度読んでも味ひ尽きません。土山鉄二先生のコロサイ書詳解は有難かつた。伝記物ではバトソン・テイラー支那開拓者には心が躍るのを覚えました。何れも恵贈である、厚く感謝します。／○これで記念号十一月の霊交誌も生れた訳ですが、上よりの御導きを感謝して擱筆いたしたいと存じます。編輯のペンも二十二年休みし月もあつたが、第二百拾六号に達しました、頭髮の禿るのも道理なりと存じます。是れみな、神の恩寵なり、会友各位の御加禱の賜と厚く御礼申上ます。神ゆるし給へば、エネルギーのつゞく限り、ペンを執りて仕へたいと存じます。外なる人は破るゝとも、内なる人は日に新なり。／皆様の御精進を祈り上げます……左様なら

**会計、三宅生「報告欄」『靈交』第 217 号、1936 年 12 月 10 日**

「一、金壱円也、大阪、前田俊太郎様／一、金弍円也、愛媛、平尾権之助様／一、金壱円也、東京、小林タイ子様／一、金壱円也、東京、大戸るの様／一、金参百円也、岡山、田中文男様／一、金拾五円也、倉敷、林源十郎様／一、金壱

円也，広島，海田婦人会様／右，誌代及御寄附に頂きました，会計，三宅生」

＊「編輯後記」同前

「○ひとの道教団の内幕は二，三年も前へより可成くはしく知つて居つたが，是も金子を集め式で○○教や○○教やらと五十歩百歩であると考えられたが，彼れのみ嵐に遭遇したのは可哀相にも思はれる，いづれ審判の時には一束にして火に焼かるゝ類であつた。／○宗教と言ふ畑には本当の麦と毒麦とが共に萌え育つものだ，故に，私はキリストを宗教と言ふ普通一般の概念と區別して，『生命』と呼び度いのである。神によらない宗教は沢山にある事が理解出来る。然らば，宗教を悪く言つたとて神を犯すとは思はない。／○クリスマスを祝賀すると年が新しく改まつた心地がする私には，新年と言ふ事が余り意味しないのである。偽らぬ処，新年は御馳走が下附されるのが嬉しいのである。新居浜の橘さんから，『蟻人の頭目』と叱られるかも知れんが致し方ない……呵々／○人間がサタンに組したので森羅万象が苦しみつゝある，皆々破滅の杯を受けて居る。物みな悩みて救ひを待つてゐるとある，キリスト降誕してより死の悩みの底に生の光明が萌して来た，それより出生の大陣痛と一切が變化した，但し苦痛はかわらぬど。／○十字架は死の印であると同時に，生みの印である，死ぬ者も苦しめば，永生に出る者も苦しむのである。滅ぶるも火によりて，救はるゝも火によりてである。現世の外見は余り大差はない，然し，最後苦痛の其向ふで徹底的死滅へと，永生への出生とに！／○クリスマスはキリストの誕生のみであらふか，我らの新生への誕生の始りである。キリストの上に起れる凡ては我らに関係がある，キリストはまるたのまゝ我らへの神の賜である。キリストの毛筋一本も皆われらの富である。何と言ふ感謝であらふか？／○オー冬よ来よ，逆境の寒冷よ……神の義の雪の潔め，十字架の野より，愛の根強き救はれの永生が萌えあがつて来るではないか……孤島の不治症の窓にも，『神の子』の生ぶ声が，続々

と高らかにあがるではないか……天地は春に向つて一転したぞ！／○SS校に国旗掲揚台が欲しいと思ふて居るがと話す，保育所楓寮の生徒が『私達は健康だから』とて今日より木の葉を拾つて，お金子を儲けて呉ると言ふ。涙ぐましくなる程に嬉しく思はれました／○其日より私は朝起床すると……神さま，今日も御国の為めに木の葉を拾はして頂きます……と祈るやうに成りました。神は幼児の口に尊き教を置き給ふ。負ふた子に教へられて浅瀬を渡る私である。クリスマスは幼児に帰つて学ぶべき日でもある。／○靈交は神の為に拾ふ一枚の木の葉である。個人としても会員としても立てない物が数々ある。現代にサヤウナラする迄，熱心に木の葉を拾はして頂かう。さうだ，毎日コツコツと拾ひて居さえすれば良いのだ。保育所は保母さんが買ふのであらふが，私のは神さまが買つて下さるのである。／○さあクリスマス号も生まれました。不自由な手と弱い体で，今年も拾ひつゞけさして頂いた，有難い事であります。各地の祝会に神の御栄光の充ち溢れますやら，祈り上て居ります。皆様の上に平和と喜びとを祈りつつ擲筆いたします。」

＊「編輯後記」『靈交』第218号，1937年1月10日

「○明治四十二年の春に大島に来た，むかしのむかしの話となつた。自分が来て後に天へ昇り初めた療友が，現在までに七百近くなつたであらう。余り古い話で，収容された日も昇天した友の数も，場合には自分の歳さえ忘れて居る。そして又，新しい年を迎えた男で最古参となつた。子供あつかひされたのが老人あつかひを受け相になつて終つた。自分の変化より島の変わり方は，更に甚だしいものがある……感慨は真に無量！／○新年の御慶を申上ます。常に御無沙汰いたしまして，欠礼おゆるしの程を願ひ上げます。穂波は外なる人は兎も角もあれ，内なる人は年と共に新らたに，何事に出会いたしましても，それも縁と致しまして神を慕ひ上げざるを得ない事を喜び，有難いことと存じられて居ります。

殊に涙の中にうつり来るキリストの十字架は、何とも言語に絶した尊さで御座ります。御安心下さいませ。／○世の人の心は『神へ』帰りつゝある。此際に正しい信仰の目標と理論とを示さねばならない。霜の街に、木枯の里に、雪の山路に凍たる島に、御奮闘下さる諸教師、諸姉妹に上よりの祝福あれと祈るや切である、主の再臨や近附けり！／○修養団の蓮沼主幹の御來島は歓しかつた。真の日本人を視よと、イエスならば紹介されるであらふと思ふ人格者である。日本を愛する我らは、日本の万邦に示し進む光輝を間違てはならない、『神に輝く生命』、これこそ国体の光揚であると信ずる。／○除夜の鐘は毎年丘の祈の家で聞く事にして居るが……聖旨の年へ……これが迎年の準備である。我らの供物はたゞ砕げたる魂の外に何も所有して居らないのである……物質に地的に世的に貧しき我らは幸ひである、生命を献げ得るから……。／○自分は集会と母親との夢をよく見るが、昨夜も又、母の夢を見た。発病以来一方ならぬ苦悩を抱きつゝ、貧乏生活に努力なしつゝ、看病して下さつた母である。共に泣き共に悩み共に怒つて、世と病ひとつ闘ひをして下さつた母である。幸か不幸か、自分がペンを執て神に仕へ初めると、全く姿も音信も断られた母である。そして無事で居て下さつても八十余歳であられる母である！／○これで新年号を各位に御贈り出来る事を喜びます。朝早くツグミと言ふ鳥が丘の上に渡つて来て、小時間を餌をあさつて居ます。冬そのまゝの底で春を迎えて居ます事が、私共の境遇と信仰にピッタリいたします。／○では皆さん、新らしき年だ、新らしくキリストに接近して、一つウンと勇ましくやりませう、恵まれた年。恵まるゝ年、希望より希望へ、喜悦より喜悦へ、一切のサタンを吹き飛ばして精進を祈上げます。」

会計「報告欄」『靈交』第219号、1937年2月10日

「一、金式円也、愛媛、平尾権之助様、一、金壺円也、愛媛、松本沢江様、一、金六拾錢也、栃

木、松村雪枝様、一、金壺円也、岡山、宮川量様、一、金壺円也、広島、海田市婦人会様、一、金參円也、米国、奥江清之助様、一、金式円也、愛媛、宇高宍様、一、金式円也、京都、七味菊江様、一、金六拾錢也、神戸、鎌田吉平様、一、金壺円也、神戸、芳賀吉蔵様、以上／右、誌代及御寄附として頂きました、(会計)」

#### \* 「編輯後記」 同前

「○玉の露こゝ大島にしつとりと……昨年秋の海軍大演習の際、江田島へ御西下の 聖上陛下に於せられましたは、恐多くも供奉の方々に『大島はゝゝゝ』と御下問あそばされ、鳥影の見えずなる迄、御召艦上に立たせ給ふと、承るだに感涙の極みであります。御皇宝の重ね重ねの御恵に熱涙を禁じ得ません……私共なにと応へ奉るべき！／○残月の淡くかゝりて梅かほる……二月号をお目にかけます。私は枳殻なりは、加藤氏の論文に暗示さるゝ処多しとは言へ、私の立派な体験の所有であり。瞑想と祈禱は戦争奨励ではなく、何処までもキリストの生命に活きん事を言はむと為る点に重心があるのであります。／○炬燵してブリキの義足ぬいであり……冬は手足が麻痺してゐるので氷のやうである。肌に触ると飛び上る程に冷たい、火に寄れば火傷の憂あり、私は断然夏を愛します。大島は至極平和に伸びつゝ、御座ります。祈りの使命に燃えて居ります／○風に吹き倒されし大樹あり……ファツシヨ風、共産風、自由風、赤い風、黒い風、吹くは吹くは全世界に吹き荒みて、英のエドワード八世の退位あり、支那の蔣介石の難あり、セラツセイ陛下が映画俳優の役を行ふたり、ソビエートの憲法が改められたり、騒々しき事である。神の国がうち立てらるゝ迄は、転々として止る処はないでせう。／○常磐木も青きがまゝに冬枯るゝ……山の道を巡ぐつて見ると、裸木の骨あらはなるも憐れなれど、常磐木も生色あせて麗らな艶を全く失ふて居る、この生色なき青こそ、更に哀れが深く胸をうつのであつた。春は裸木さえ其の梢に肌に生色が躍つてゐるが、冬は青木にさへ生色が無い。私は

裸木ながら生色を内に躍らす事が好きである。／○境遇上やむを得ず編輯を早目にして印刷に送らねばならぬので、自づと話が後ろより行く事になるが、時事新報でないから話の内の何かさえ解つて頂けば、目的は達する訳と思つてゐる。／○靈交会及穂波への御送金下さる方は、振替用紙に『長田嘉吉』か『長田穂波』か宛に願ひます。最初にウツカリして、靈交会名では願届を致してありません。一寸申上て置きます。別に、御送金のサイソクではありませんから悪しからず。／○さやうなら次は桜の月に来む……皆さんの聖戦の御前進を祈上ます。倒れつゝも、『万歳ッ』と叫び得る迄。御幸福に左様なら！

\* 「報告欄」『靈交』第 220 号, 1937 年 3 月 10 日

「一、金壺円也、高松、高橋亀太郎様、一、金壺円也、高松、宮尾隆邦様、一、金壺円也、香川、坂本皆之助様、一、金貳円也、界市、花本秀夫様、一、金五円也、愛媛、松岡貞蔵様、一、金參円也、島根、加茂婦人会様、一、金參円也、京都、福永キクエ様、一、金貳円也、徳島、大野鶴一様、一、金貳円也、八幡浜、谷泰吉様、一、金貳円也、広島、中山国三様、一、金壺円也、東京、植田勇二様、一、金貳円也、千葉、高橋音市様、一、金六拾銭也、愛媛、矢内原安昌様、一、金壺円也、京都、吉田義子様、一、金參円也、沖縄、家坂幸三様、金貳円也、倉敷、井上孝子様、一、金貳円也、多度津、鹿角義助様、一、金貳円也、東京、宇津木勢八様、一、金壺円也、熊本、松田ナミ様、一、金壺円也、愛媛、橘新様、一、金五円也、愛媛、長沢俊介様、一、金貳円也、愛媛、平尾権之助様、一、金拾円也、三本松、日基教会様、一、金貳円也、安中、内田久治様、一、金參円也、門司、宮内彰様、一、金壺円也、奈良、大館利男様、一、金五円也、神戸、聖書教会様、一、金壺円也、静岡、岩井理三郎様、一、金五円也、東京、駒込日曜学校様、一、金壺円也、高松、形見つる様、一、金壺円也、三豊、大木様、一、金壺円也、三豊、白井様、一、金六拾銭也、高知、大

坪虎意様、一、金五円也、高松、三番町教会様、一、金壺円也、朝鮮、高瀬時助様、一、金壺円也、大阪、辻政子様、一、金貳円也、平塚、高橋住子様、右外に穂波に自由使用をゆるさされました橋様、大坪様、竹沢様へも、厚く御礼申上ます。」

\* 「編輯後記」同前

「○三宅官之治教兄は我等キリスト信者の善き導者と言ふのみでなく、大島療養所の今日をつくる上に於ても大なる功労者である。兄が自治会の基礎なる娯楽会の為め、又、作業改革の為め等、内治幸福の為に尽されし事は言語につきぬものがある。殊に、今年環曆であり、又、御受洗三十周年にも相当するので、我等發起人となり友人有志と祝賀会を催す事となし、二月五日兄の誕生日を以て開催し、記念品を呈し感謝の意を表し、茶菓に打ち興じて散会しました。／○靈交会としては三宅兄の老軀いつまでも作業に勞するを見るに忍びず、且つ、大切な存在で一層会の為め自重を乞ふと言ふ感謝と友情とより、毎月金壺円を贈ることに決定しました。我らの内情を少しにても知る程の方は、拍手して下さる事と信じます。／○今月も記し度き事沢山にて紙巾の狭きを感じ原稿が残つた。『この子心』は信仰の真髓を言ひ度一杯、即ち利害も自分も越えて神を慕ひ行く子心を。『楽しむへし狂ふべからず』も現代の病根に確かに触れてゐると信じてゐる。三宅兄の『感謝の念』も我らに反省をうながして止まぬものがある。先ず本号も相当のものと思ひます。／○温い冬だと言つていた処、俄に寒波が寄せて来て、ペン持つ手が思ふまゝに動き難く、努力が入る事、しかし嬉しいことだ、一枚一枚と書積つて行く、かくて活かされるのである。庭前の二株の菊が淋しくすがれてゆくが、私は一枚づゝ伸び上られます。／○空を白い雲が流るゝ、雪がチラチラ舞ふ、未知の人が訪問して呉れて、「何か話して訓を頂き度い』とせがまれる。何の訓し処か、私が訓して貰ひたい心で一杯、それでも切角、遠路来た人と思つて何か語る。／○毎日常

にか多忙な用事が出来る。健康なら善いものにな  
ア一等と慾な願ひが頭を起す。それ程の自分の  
活かされが、奇蹟のやうに思はれて来る。勿体  
ないことだが、さて毎日私の為たり言ふたりが  
果して是れで善いものか……神よ、是れでよろ  
しいか！／○靈交誌を通じて皆様の御近況御伺  
ひ申上ます。風邪など御用心下さいませ、御幸  
福をお祈り申上つゝ、攔筆いたします。さよなら」  
**会計係「報告欄」『靈交』第 221 号, 1937 年  
4 月 10 日**

「一、金五円也、岡山、光田芳子様、一、金壹円  
宛（高知、谷愛美様、島根、大東基督教会様、  
大島、奥村竹一様、愛媛、村上喜一様、愛媛、  
鈴木寿子様、香川、信原文雄様）、一、金拾円  
也、愛媛、河端寿子様、前田綾子様、一、金七  
拾五銭也、広島、浅木春見様、一、金貳円宛（京  
都、村上幸太郎様、愛媛、平尾権之助様、京都、  
ナザレン教会様、高知、玉井友治郎様、大阪、  
広瀬広治様、広島、海田市キリスト教婦人会様）  
／右、誌代及御寄附として頂きました、厚く御  
礼申上ます、会計係」

＊「編輯後記」同前

「○本号は三宅大兄祝賀記念号の心算である。未  
だ謝恩会發起人の礼状全文は載せなかつたが、  
全誌面に充ちて居る。兎に角、島内に催された  
一つの音信として御読み下さらば満足であります。  
／○兼ねてより思はされつゝ、あつた事、それ  
は内容の奇抜な雑誌は華美な輝きを発するが、  
必ず永続せない。また、何かの背景に支えられ  
て居るものは、何の指導力も無いのが多い……  
そして私は恐るる……この靈交の読者が如何なる  
気持で触れて呉れつゝ、あるかを、多くの方が  
『おなさけ』で読まぬが受取てやる、こんな風で  
はないかと／○編輯に掛る際、汗して祈るのは、  
タドタドしい文章の中に、聖旨を加え給ひて、  
唯の一人の生命になりと活用なし給へ。これで  
あります。しかしながら、不用と思はるゝ御方  
は御遠慮なく『中止命令』を御送り下さいませ。  
又、御心附の点は御叱訓賜りたい。／○なかには  
誌代を送れない事を非常に心配せられる貧し

い御方や学生があられる。靈交誌は決して営業  
ではありません、これでも神の御事業の一片と信  
じて熱心にやつてゐます。費用の点は神知り給  
ふ、若し廃版に成るやうならば聖旨でせう。聖  
旨ならば凡て神が充足して下さいませう。何卒、  
御心より読み度く思はれますならば、ドシドシ  
御請求下さいませ。／○大島の状況を毎月おし  
らせ致し度い、又、改宗入信談を記し度い、然  
し、大島が幸福平和なれば同じ事のみで珍らし  
い事はない。入信談も余り語り度くない兄弟が  
多い、言葉の伝道は一人か二人あれば十分な土  
地、必要なのは無言の内に光つゐてる信仰の実  
際生活者である。活きた神の生命の器である、  
これで誠に不似合な誌面になる。／○チラチラ  
と雪が散つて来た。何処からか笛鳴きが、カス  
カニ聞えて来る。南天の赤い実の美しい鈴なり  
のを持て通つた人がある。ぼつと安心の氣息を  
机に吹きかけて、三十余枚の原稿を撫つゝ感謝  
してゐます。不自由な手に体に、お礼が申たい  
心地です。／○脳は鳴る瀧の如く、虫の音楽の  
如く、そして仕事の後は熱を持つて来る。耳は  
遠いと思はぬが、友人は遠いぞと言ふ。口はモ  
ノ言ふも喰ふも不自由、目は星が入つてとれず、  
仕事の後で球傷がフクレあがる。痔は脱出して  
出血を時々する。偉なる哉、癩菌！、我全身に  
横行する。更に偉大なる哉！！、キリストの血  
は死屍を活して用ひ給ふ、オー我が肉よ、汝は  
実に奇蹟に近し。／○うれしいでないか、オイ  
肉体よ、しつかりせよ。兎に角く四月号が生れ  
たぞ、何よりかより神と同胞との幸福を目的と  
して今日も活かして頂いた証拠品なのだ、有難  
たいでないか、嬉しいでないか、サア……感謝  
だ、感謝だ、うれしいなア……。／○この四  
月一日で大島療養所開所二十九周年になる、穂  
波も入所して二十九周年になる。こんなに長く  
生きるとは予想しなかつた、精々五、六年の内  
には菌に喰ひ殺されるものと覚悟して居た。自  
分より軽症な人が沢山早く死亡して行つたに、  
不思議なことだ。／○神の恵み、主イエスの愛、  
ゆたかに充つ、この大島である。感謝して受く

る者は幸福なり、其人は長命せんか……皆様の御清福を祈りつゝ、擱筆いたします。」

**会計「報告欄」『靈交』第222号, 1937年5月10日**

「〇一、金壺円宛、広島、海田市婦人会様、岩手、三浦信一様、一、金七拾五銭宛、広島、浅木春見様、三豊、岩田精一様、一、金五円也、愛媛、橋新様、一、金弍円也、愛媛、平尾権之助様(真鍋姉と村上兄は穂波に自由使用の御送金を御礼申上ます。穂波坊)、右、有難う存じまず。会計」

**\*「編輯後記」同前**

「〇社会相が悪くなりますと、『靈交会』とか『長田穂波』等の会員とか友人とか申して名義利用する者が現れ、御迷惑せられし方が時々あられると承ります。斯る場合、その人物と個人的御交渉は別として、万一にも靈交会に関するとか穂波に関連する如き御交渉は、一応当方へ御照会を願ひます。〇故小林博士の胸像の除幕式、がありました、彼の学者的良心の鋭い、信念の強い、偉丈夫の人格が偲ばれて、一入におなつかしく仰き上げられました。健立に御尽力下さった野島所長様に感謝いたして居ります。〇兼て、保育所児童の小さき真心の祈り以て、落葉を拾つての『国旗台』が立派に完成いたしました。檜の竿の五間半が四尺の台上に立つて居ります。患者自治会作業部長、北池為市氏が特別の御努力を下さいました、厚く御礼を申上たいと存じます。〇旗竿が出来たので、『大島SS校旗』を患者少女室にて作つて貰ひました。聖丘の朝風に翻るのを見る事の喜悅しさよ。生徒より先生の穂波坊が踊り上つてゐます、『子供みたいに、白髪頭して』と笑はれる事でせうが致方ない、悦しいのだから、万歳! 〇ブラザルの岡田さんより御手紙と写真が贈られた、職員で大島で求道して大島で受洗された瀧川さんと最初の二人の内の一人である、なつかしみつゝ、視ると、大分大人びて好紳士になられて居る。力行会卒業移民指導員であられる。御精進を祈るや切! 〇大島名物は所歌にも唄ふ『真紅の

つゝ、じ』乱るゝ日となつた。山が香ほる、病友は床を捨て、山腸の路を三三五五と連れ立つて行く、そして短歌や俳句や随筆などが生れつゝ、あるらしい。沖遠く鯛網を引くらしも、漁夫等の掛声が潮面を這つて来ます。〇イキスター『復活祭』、キリスト甦らずは我らの信仰も空しく宣教も偽りとなるとパウロは大胆に復活の生命を高唱しつゝけてゐるが、実に永生の確在及人生の真礎を此処に視る自分は、十字架の彼方よりを記しました。現世の一切を超越した復活の世界より観る『新しき人生観』には広い天地がひらけて仰がさるゝのであります。〇今号は短歌の原稿を握つて居ますが、来月号へ愛割いたしました。『靈交余録』は続いて力強い断片をと存じてゐます、御味読を乞ふ、冬は全く去つた、病軀もこれからは伸びませう、悦しい時候に向ひました。皆様の御幸福を祈り上げます、合掌」

**会計係「報告欄」『靈交』第223号, 1937年6月10日**

「一、金七拾銭也、京都、大谷寿恵野様、一、金弍円也、愛媛、平尾権之助様、一、金壺円也、広島、中上悟様、一、金六拾銭也、大島、上本隆重様、一、金壺円也、東京、山下彰様、一、金弍円也、岡山、高戸猷様、一、金参円也、大阪、金沢泰治様、一、金参円也、京都、志村卯三郎様、一、金壺円也、広島、東山磯男様、一、金五拾銭也、大島、高橋竹代様。〇右、誌代及御寄附として頂きました。」

**\*「編輯後記」同前**

「〇遊佐敏彦先生より「沖繩紀行」と言ふ先生著を贈つて頂き、沖繩癩者の事情がよく理解出来た、実に同情に絶えぬ。同じ国立療養所としても宮古療養所の苦心に感謝いたさねばならないと思ふ。本書の売上利益は沖繩の兄弟達を救ふ費とせらるゝとの事、発行所は東京市世田谷区北沢五ノ七一〇使命社で定価金弍拾銭である。〇四月入りに患者自治会役員の選挙がありて、石本俊市兄が又総代に当選任命された。外に会員より五、六名役員として選ばれた。理想の楽

園建設の爲め努力したい。誌友の御加禱と御援助とを願ふ次第である。／○金沢先生と橘大兄とが御来教になつて大変悦しかつた、橘新兄の御深愛には一同感銘いたして居ます。また、河野進先生も御訪問下さつた、大感謝、また、関西MTL幹事岡村謙三先生も御訪問下さいました。霊交会はキリストを会長としてゐるので、其他の何者にも縛れなく無い。キリストの聖名の下に○派△派を超越して、皆様と共に神を讃へ度い、何派の方でも共に御神を拜ませう。／○今や国家は非常時だと申す。確に思想的にも非常時であるらしい。大いに祈りませう。予言者の「終末の世」の聖言を胸に抱いて、愛する日本、尊き御皇室、一般同胞の御幸福を衷心より祈りませう。今日最も必要にして最も欠乏して居るのは「国民の祈り心」であると存じます。／○真紅のツ、ジ乱るゝ大鳥、昨今は各室とも何か御馳走を作つたり致して、「花見」に丘へ登つて居るとの言、不幸にも足傷悪化のため、花見の噂を耳に為しつゝ、毎日々々読書か原稿かを可成り高い発熱の体でやつて居ると、窓より外に何か極楽世界でもあるかに思ふ日もある。しかし、自分の斯くして机に向つて居る事が悲しい等とは決して考えない。矢張り、悦ばしい、キリストに在る有難さは如何なる場合にも、生命の花のポツンポツンと開くのが聞ゆるのである。／○名古屋の一粒社の横井兄より「読者趣味」と言ふ本を贈られた、確に一読すべきである、定買は四拾銭である。／○謹啓、毎月一度訪れくれる霊交誌を桑喰ふ蚕虫のやうになりて熟読する一人です、「おなさけ」で受取つてやる読者もあるかも知れぬが、又、生命の真清水として有難く毎月頂いて居る者も在るといふことを知つて頂き度ふ存じます……会津若松の小林隆様より絵ハガキにて御便があつた、感謝々々！／○SS校に立派な国旗台が出来、また、保育所の大浜先生より大きな国旗を頂いた。それから少女室の努力でSS旗を一旒作つて貰つた、無性に悦しい、来る天長節に掲げ初めしやうと考えて居る。「汝ら幼児の如くならずば、天国に入る

を得ず」、又、「汝の若き日に神をおぼえよ」、アーメンなる哉／○庭先きの二株の金仙花が黄金色の花を十輪程つけて、真昼の静けさに香つてゐる。草花いざや語れかし、妙なる色香は何の爲めぞ。偉大なる自然の芸術でないか、神の生命が盛り上つて居る、実にソロモンの榮華より美しい、潔い、オー有難き存在よ。／○四月号は県の其筋より御叱りをかうむつた、恐縮してゐます。つい時事問題に触れかけまして。今後十分注意しやうと思ひます。六月号も早目に印刷に廻します、議会の解散で衆議院議員の選挙のため、多分印刷がをくるゝと存じますから。／○不自由な境遇と不便な地理と神風号のやうにはゆきません。真理は古びない……斯う心臓を強くして六月号を四月の中旬に編輯いたしました。余り早過るから、ゆるされたら臨時号でも出し度いと思つてゐます。／○皆さまの御幸福を祈りつゝ……サヤウナラ」

#### 計係会「報告欄」『靈交』第224号、1937年7月10日

「一、金参円也、愛媛、橘新様／一、金貳円也、愛媛、西原重敏様／同、京都、伊賀貞子様／同、愛媛、平尾権之助様／一、金壹円也、神戸、末永喜三太様／同、京都、内本善三様／同、近江、西井知与様／同、東京、松本タマ様／一、金五拾銭也、大鳥、高橋女医様／一、金貳拾円也、倉敷、林源十郎様／以上／右、御礼申上ます（愛媛松本沢江様）穂波への送物を頂き感謝いたします。計係会」

#### \*「編輯後記」同前

「○菊根分け竈の灰を持って来る……空あいを気配しつゝ菊の根分を為る頃になつた。秋の香花を楽しむに土まぶれに成つてやる、我らも主の台前の日を楽しみに、苦悩の中に臥して微笑するのですね。／○外国より来る手紙あり、花の間ひ……英語を習つて居ない悲しさ、手紙貰つても読めない、訳して貰つて初めて差出人も内容も知れる、チヨイチヨイ是れで困まる、薬屋かと思つたのが、シカゴの放送局であつたり、何かの記号かと思つたのが、哲学博士の事であつた



り、不自由な事である。然し、天国で斯な不自由のないやうに、『神の聖言を』ウンと知つて置ませう。／○雷の鳴る日を富士に登りけり……問題の人生を根本的に解結して見たいとの声がある。問題の中で問題は解けぬ、高く登りて視ると始めて全般的に真相とその動きとが、わかるものである。八釜敷く、騒がしく、恐ろしいやうでも、実際はそれ程でない事が多いのでなからふか……。／○大島は最近訪問者が増して明るくなった。訪問下さる方達が皆々喜んで御帰り下さるので何よりと存じて居ます。大島気風は春のやうではありません、秋の静澄さに似て居ります。然し、決して夕暮のやうではありません、早朝の静けさであります。／○一寸と下話になります。正直な処で、目千両と言ふて、美しい眼のことですね、その千両の美にも、『目糞』が出るものです。美を愛すると同時に斯の欠点にも御理解が欲しくあります。叱て下さる愛も欲しくあります。／○私は心は元気一杯ですが、病気の方が老込で来まして、自分一個の日送りに矛盾を感じて居ります。心魂のまゝで活ると病者らしくなくなり、病気のやうに活ると心魂が不満に耐えません。解結は多分、老身は休息に入りて若い者のみが踊る時でせう。／○未だ明けきらぬ暗を破つて鳴く時鳥を、こゝ二、三年聞かない、小豆島の方より白峰の方へ鳴き渡る声を、今夏は聞きたいものだと想ふ。恵の家の丘の上あたりで能く聞いたものだが。／○詩集を發表する迄は、こんなに多忙ではなかつた。彼の後は甚だ多忙になつた。どちらが神の御旨に叶ふか、わからないと思ふ。なくてはならぬものは唯一なり、マリヤは善き方を選びたり。御声が聞こゆるやうな気がする。／○半ヶ年の間に会心の原稿が出来た。自然に生れた、『心の日記』である、出版したいものであるが……引込みたい。進出したい。出るも引くも、御栄光の崇められん願ひ一つに由る矛盾した調和である。キリスト者は自由を有すとは是れか？／○ひと頃は科学方面の書を、ひと頃は哲学者を、ひと頃は思想と経済の書を、順礼に巡つた

が、結局は聖書に関する書物のみが箱に残つた。いまは凡てが聖書の証人として使役せられて居る、無駄ではなかつたが彼のパウロ、『世の小学』、と言へる心が幾分か解かるやうにも思はるゝ。／○七月号もヤツト生れたが、神よこれでよろしいでせうか、あなたが御使用下さい。愛読者を祝福して下さい、御願ひ申上ます。／気持よくインクの干く青嵐]

会計係「報告欄」『靈交』第225号, 1937年8月10日

「一、金六十錢也、若松、小林マスエ様／一、金壹円也、大島、奥村竹一様／一、金貳円也、愛媛、平尾権之助様／一、金貳円也、広島、中上悟様／一、金五円也、福岡、松尾逸郎様／右、御礼申上ます」

\*「編輯後記」同前

「◎明治、大正、昭和と三代にわたりて療養所の御世話に成つた。過日も自治会の委員方の御好意により、二十年以上在院者を集めて座談会を開かれた。七百近い病友の中に僅か三十三名であつた、その内に又、二人逝きて現在三十一名と言ふ数、そして、開所以降の永眠者はまた七百近いであらふ！／◎善く言へば古参であるが悪く言へば、死に損じのゴクツブシである。そして病友の思考にも、確に斯の二方面の観方に別れて居るであらふと思ふ。神の使命、皇室の御仁慈、生命の要求、運命の開拓、等々の点より私は五十年生きても無駄になるとは思考しない、人はパンのみで生きる者に非ずと言ふことを信じ、且つ体験するから……。／◎衣食住さえ充足すれば、美しい社会及び人性が作り養へると考えるのは大間違である。斯る考えをする者は、人間と言ふ者を知らない証拠である。貧の乱れは救へるが、富める乱れは救ふべくもない。その醜さは殊に甚だしいものである。生活安心したからとて、諸般の設備が完全したからとて、療養所も人間の住む世界である、油断はならない。／◎個人として宗教的に掘り下げて行くと共に、全体としても修養精神が必要である。個個と会と会と上と下と鑰の如く結ぶ空

気として、これは所内の幸福のために必要である、此処に社会教育と言ふ点を十二分に考えねばなりません／◎重病室に入らねばなくなると、誠にお気の毒である。目が見えず、耳が聞えず、声も出ない兄弟がある。ヘレン・ケラーは非常な感覚に恵まれてゐるが、癩者は麻痺しつつしてゐる。その上に、五人に一人の看護人である、大方の事は自分でするのである、其ベツトに詠む一首の歌は、実は大した心の華でなくて何んでせう。／◎編輯子も大分耳を犯されて来た、脳も犯されがちである、そろそろと目も声もと来るでせう。しかし、明日は神の愛の手に信仰するから大安心である。今日を生きる、まゝに祈りつゝ、最善の歩みをいたし度い、この大安心と祈りとに詩があり歌があります。／◎庭前の三尺の畑に白百合が咲いてゐます。梅雨に這入た空は白ら白らと晴れてゐます。所内ラヂオは大阪角力を盛んに放送してゐます。原稿はグングンと周囲に捕はれず前進して、三十余枚目に達しました。一日に二十枚は、あとでグツタリ致します。／◎今月の神を神とせよ……これは高慢なやうな賜物でありませうが、神より祈りの内に与へられた処を、正直に其儘であります。では皆様の御幸福を祈りつゝ、摺筆いたします、梅雨過ぎて暑さに成つて御手下に届きます。」

**会計係「報告欄」『靈交』第 226 号, 1937 年 9 月 10 日**

「一、金式円也、東京、小野一良様／一、金式円也、愛媛、平尾権之助様／一、金壺円也、愛媛、橘新様／一、金壺円也、広島、中上悟様／一、金五円四拾貳銭也、八幡、組合教会 SS 様／右、有難く頂きました／会計係」

**\*「編輯後記」同前**

「☆自分の思想的生活の日常を随筆集にマトメたとい、日記の内より百四十頁ほど書抜いて見た、今だ百枚ほど残つてゐる。長いので原稿紙七枚以内、短いのは四、五行のもの、こゝらで一休みと言ふ処で、今度の編輯にかゝつた、内職より本職に帰つたと言へるかも知れない。／☆書

いて居る腹背より汗が流れる、兼ての犯されてゐる脳を初め、全身の耐暑力の減退でもあらふ。午後の六時半にペンを捨て、井戸水を頭上よりあびるか、鹽にくんで這入つて全身を洗ふ清々さは又格別！、いかなる時にも嬉しきは尽きぬもの……。／☆今日は七月九日、九月号の編輯はチト手廻しがよすぎるかな、印刷屋に一ヶ月分の原稿を預けて置く順になる。鳥の出版物の普通の事である。出版物と言へば、永見祐君が今回『癩者文学』を出版された、四六版、九十頁、定価五拾銭、これは主として評論である。君が純文学に精進されし結晶である。／☆オヤツ……俄然風が冷つくくなつたぞ、頭を上げると窓外、黒雲巻き起ちて墓標の松は西風にゆれて、遠雷を聞く、支那の詩人の言ひ相な景色である、これは一つ夕立の姿を見ずには居れないぞ……さて神鳴ると呼びし昔より、電気作用と知つた今日までの歴史がと、頭にくる。／☆何んと草木は強いぞ、彼れ程シオレてゐた庭の朝顔や無名の草などは、空気が雨気を含みただけで、早やキツと起き上つて笑つて居る……偉イツ。何かを暗示してゐるやうである。ついに大粒の雨が落ちはじめた。風が強つて来て、雨と諸共に机の上まで飛んで来る、濡るまゝに迎えてやらふ。／☆丘の畑にトマトができた、美しい色をして病友の商人を作つてゐる、百目参銭だと言ふ、作権利は個人財産の一つとなつてゐる、坪七、八銭より拾銭の個処もある。しかし、作物個人売買価格は自治会委員の公定表示による。地主あり、自作あり、小作人ありにて、此処に社会問題に近いものがある。／☆大島の集会を知つて頂くもよいであらふと思ひ、今回は感話の記憶帖より二篇を出しました。三宅さんのも確に集会感話であると記憶する。司会は受洗者の順番、その当番の自由でプログラムを作る。感話は二人ぐらいが立つてする。／☆司会者が前以て依頼する事もあり、多くの場合、『どなたか与えられてゐる方は』と問ふ、すると何処から立て来るか計られない。誰も起つ人の無い時は、必ず、『穂波よ起て』と来る、穂

波だけは依頼して来ない時でも、話す者と決定されて、補欠のアテにされて居る。自分も御使命だと信じて起つ。／☆会員の肉体が全体に弱くなつて、重病室へ臨時特別治療に入院する者が、たいてい七、八名ある。多い時は十名からある。信仰の低下したので、御練みかも知れぬ。パウロは信仰を失ふから病人が多いではないかと叱つた教会があるから、大いに反省せねばならぬと思ひます。しかし癩と闘ふのですから。／☆神田兄など、目が見えず、耳が遠く、その上にモノが言へなくなつた。ジサツオモタ、カミノコトバ、シンズ、シネン、イマハホガラカ。と私の机の上に指で記して呉れた。不信仰でない、追々世のものと離別して天国行きの支度なんだ……しかし泣けて終ひました。／☆ひたふるに信じぬくものです。頭数でない聖旨にのみよりすぎるのみです。人間でない、肉でない、神です霊です。この上は強くなるより外ないのです、永遠の生命にのみ打ち込むのです。眩きますまい、何を今更地上に恨を残しませうか。／☆一家族で次から次ぎと発病者が出る、全滅に近いのが尠くない、病友ら投票の結果四百余票が、『癩は遺伝と思ふ』です。大島では斯る考えがあるので、非科学的ですが、斯く伝染説が弱しと為べきやうな『実際がある』のです。／☆どうやら夕立が晴れたやうだ、九月もこれで失礼します。編輯子のため、特に本紙のため御加禱下さいませ……穂波個人としてもヨリ強く有効に御用ひ下さるやうに、何卒々々お祈りの程を願ひ上げます。／暑中御幸福に御精進を祈り上げます……………」

会計 (三宅) 「報告欄」『靈交』第 227 号、1937 年 10 月 10 日

「一、金式円也、愛媛、富永繁蔵様、一、金参円也、大阪、岩本琢義様、一、金壺円也、倉敷、小川さと子様、一、金壺円也、香川、児玉しづゑ様、一、金壺円也、群馬、西堀やま様、一、金式円也、愛媛、平尾権之助様、一、金式円也、神戸、芳賀吉蔵様、一、金参円也、大阪、西田五郎様、一、金壺円也、広島、中上悟様、一、

金参円也、尼崎、岡村謙三様、一、金式円也、香川、原田義太郎様、一、金壺円也、高松、大塚雪雄様、一、金式円也、愛媛、平尾権之助様／右、誌代及寄附として頂きました。」

\* 「編輯後記」同前

「◆世の始より物皆は死んでゐるのだ、視ると逢ふ人が皆死につゝある、それが毎日活きて、『今日は』と挨拶する不思議である。この不思議こそ神の業であり神の愛であると、他人を見ては思はるゝ！／◆人間と言ふ者は〇〇の聖人のと言ふても矢張り人間である。賢の中に愚あり愚の中に賢がある、賢愚と言ふも僅の差に過ぎぬ。孔子と盗石とに共通するものがあつたであらふと思ふ。誰も威張てはならぬ。誰も卑屈になつてはならぬ、敵の心も解るのだ、同情も出来るのだ。愛し得られるのだ！／◆『己れに為られむと思ひ欲する如く、隣人にも為せとは』、人間の奥意の琴線への真のひゞきでなくて何ぞ深い哉／◆今年の残暑はキツかつた。然し、体の好調に恵まれた。暑い時は皆あつい、誰も暑い、人類共通である。然し、私は夏を愛する。／◆大阪の広瀬広治老人が御来島下さつた。一般にタオル七百筋贈られた。商人としてクリスチャンとして、使徒的生活者として、経験談や御感想が承り度かつたが、時間の都合で御挨拶のみで御別れしたのは、返す返すも残念であつた／◆東京帝大教授矢内原先生の御一行の御来教は有難かつた、御疲労を押して一般に靈交会員への二回の御講演は御気の毒であつた。然し、二回とも私共の奥意の琴線にピンピンと触れて高鳴らざるを得なかつた。／◆『皆さんに迷惑がらるゝ迄参ります』と伊予の橘さんの御挨拶、最早処女の如き感激はないがと言はるゝ大兄の言文は面白い、甚だ味がある。見物ではなし、信仰の友としての交りは、一家内の日常生活の如く、平凡な平和な心のみで、時には口喧嘩の一つもする事があるくらいが本当であらふ。／◆祈りの友は、日常に喰ふ麦飯の如き交りでありたいと思ふ……………」／◆皇国の今日は祈りの必要な場合である、雨。降つて地かたまる

タトエの如く、世界平和のかたき基礎の、一日も早く立てあげられむ事を……。／◆大阪の脇田医学博士と大阪時事の大浦記者と同日に御訪問下さった、感謝、脇田政孝博士はオゾン注射の発明者で、大島にも盛に行はれてゐる、御同情は有難い。大島に不足してゐる二大問題、電灯を陸より引く事、飲料水道問題が、予算会議で可決した、但し、十三年、十四年の二ヶ年事業として、所長殿初め各位の御尽力を感謝。／◆今年は事変柄、盆の賑は一切中止、そして只管に御皇室のため、皇軍のため、日支平和の為に祈つてゐる。一時の感情に終る事なく静かに深く考えて、最善の結果を祈り求めて止まない者である。／◆編輯終りて静に神へ献納の祈を捧げると、涙が湧いて来る、弱い者の感謝の気持、秋は来れり、皆さんの御前進を祈ます」

(つづく)

(附記) 今回は、連載の全体の配分をふまえ、また本誌規定枚数にしたがい、資料のみの掲載とした。ここに掲載した記事の読み方については、べつに本学部 Working Paper Series No.135「楽しい赤裸の場所—大島療養所、長田穂波、情緒纏綿」(2010年7月)に記した。(2010年7月31日記)